

授業科目の概要

人文学科

基盤講義

AK001 人文学入門

人文学は人間の知的・文化的な探究の営みと成果を探求することを目指し、そのため人文学科には、哲学、日本文学、英語文学文化、史学の4つの専攻がおかれている。

この講義では、まずそれぞれの専攻での探求の一端を紹介する。これによって人文学の課題や研究方法の基礎を学ぶ。それと同時に、他の専攻とのつながりや共通点についても学ぶことによって、人文知の全体を広く眺め大きな視野から人間の文化を探求する基本姿勢を身に付けてもらう。授業は4つの専攻の教員によるチェーン・レクチャー方式で進める。

基盤演習

AK201 人文学基礎演習

人文学の基幹をなす哲学・文学・史学に共通する研究方法について、基礎的な知識やスキルを養成し、かつ学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって各学生に確実に身につけさせることを目標とする。具体的には、以下の三点に集約される。第一に、資料に触れて、原典に基づくことの重要性を知り、そこから可能な限りの情報を引き出す方法を学ぶこと。第二に、先行研究をいかに探索するか、またその先行研究に対して、どのように自己の見解を作り上げてゆくべきかを考えること。そして第三に、他者を説得する論理を、組み立て、表現する方法である。

卒業論文

AK901 卒業論文

学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。(英語文学文化専攻は英語で執筆する。)主に特殊演習においてそれらの論法を学ばせながら、各担当教員が個別に指導を行っていく。卒業論文提出後には、複数の教員から成る主査・副査体制を基本に口述試験を実施し、論文の審査を行う。

AK902 Final Presentation

学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程での集大成として英語による Presentation Essay を作成する。主に特殊演習においてそれらの論法を学ばせながら、各担当教員が個別に指導を行っていく。Presentation Essay に基づき英語で行われる Final Presentation を口述試験として実施し、複数の教員から成る主査・副査体制を基本に論文およびプレゼンテーションの審査を行う。

哲学専攻

基盤講義

AA001 哲学入門Ⅰ

哲学とはなにか、をゼロから学ぶ。哲学することのトレーニングの授業であり、常に、受講生との応答や議論のなかで講義は進められる。日常的で常識的なものの見方のあいまいさや不確かさを確認し、常識に囚われずクリアにものごを深く考え抜く力を身につける。「哲学入門」では、哲学的テキストに触れる前に、自分自身でものをじっくり考える訓練に重きを置いて授業を進める。

AA002 哲学入門Ⅱ

哲学とはなにか、をゼロから学ぶ。哲学することのトレーニングの授業であり、常に、受講生との応答や議論のなかで講義は進められる。日常的で常識的なものの見方のあいまいさや不確かさを確認し、常識に囚われずクリアにものごを深く考え抜く力を身につける。「哲学入門」では、先達の思想家たちのテキストにも接しながら、難解なテキストと、自分自身で考えることの連関を考えていく。

AA003 哲学概論

哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。内容としては、人間と文化のかかわりを中心にして、人間が言語や知識を通じて周囲のものとのように関わりながら、世界を築いていくかを考える。そのために、古今のさまざまな哲学・思想を手がかりにし、また隣接するいろいろな学問も参考にして、多面的に検討する。ただし、学説の紹介よりは、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことに力点をおく。

AA004 倫理学概論

倫理学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。内容としては、社会生活を営む人間同士のかかわり方を中心に、「私」の存在、善と悪の判断、法や道徳が成立する根拠などを考え、価値観の多様化の中でこれからあるべき社会のルールについて模索する。そのために、古今のさまざまな思想を手がかりにして、多面的に検討する。ただし、学説の紹介よりは、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことに力点をおく。

AA005 美学概論

美学の基礎的な諸概念と現代において美学の当面している問題を取り上げ検討することによって、美学という学問の理解とその基礎の養成を目的とする。テーマとしては美の概念と芸術の概念の歴史的展開を概説した上で、現代の美学における美と芸術の概念と両者の関わりをめぐる議論を紹介しつつ検討するとともに、それを通して現代の社会における芸術のあり方について考える。また、文学、美術、音楽など個別諸芸術の問題についてもできるかぎり触れる。

AA006 キリスト教学概論

人文学科とくに哲学専攻の学生を対象とし、ヨーロッパ思想史の必須の素養としてのキリスト教思想へといざなう。神の愛と隣人愛、信仰と希望、原罪と贖罪、三位一体論など、キリスト教思想の基本を解説し、ペテロ、パウロ以来のキリスト教会史の流れを概観する。天使とも動物とも異なる被造物としての人間の位置を明らかにすることは、「人間とは何か」という哲学的考察にも資するところ大であろう。また、キリスト教の提起する人間観は、現代世界が直面している深刻な危機を見抜く洞察力を培うに違いない。

AA007 西洋哲学史AI

初期ギリシア哲学を平易に概説する。紀元前6世紀以来の、哲学の端緒をめぐる、ソクラテス以前の思想家の多彩な思索の跡を辿る。科学、神話、文学、宗教などと対比しながら、自然と人間をめぐる雄大で豊饒な古代世界の遺産を堪能したい。テキストは、荻野弘之『哲学の原風景 古代ギリシアの知恵とことば』(NHK 出版)を用いる。

AA008 西洋哲学史AII

「西洋哲学史 AI」に引き続いて、紀元前5 - 4世紀のアテナイで活躍したプラトン、アリストテレスを中心に、西洋哲学史の礎石を据えた哲学的思考の原型を取り出す。現代哲学の諸問題と交錯する最新の研究状況の一端も併せて紹介する。テキストは、荻野弘之『哲学の饗宴 ソクラテス、プラトン、アリストテレス』(NHK 出版)を用いる。

AA009 西洋哲学史BI

西洋近代哲学史は、十七世紀に一応の成立をみた科学革命の衝撃を受けて、デカルトとともに始まる。この初期起動のゆくえを、デカルトの主著と見なされてきた『方法序説』の第一部から第六部までを読解することによって、実地に見届けたい。参照する著作は多岐にわたるが、中心に据えられるのは『方法序説』(谷川多佳子訳、岩波文庫)である。

AA010 西洋哲学史BII

近代の特筆すべき現象として、国家にとって代わる「社会」の成立が挙げられる。ホッブズの新しい政治学を引き継いだルソーは、自由・平等・博愛という近代的理念の礎を築いた。このいわゆる社会哲学の消息を、哲学史的に俯瞰したい。参照する著作は多岐にわたるが、中心に据えられるのは『人間不平等起源論』(本田・平岡訳、岩波文庫)である。

AA011 キリスト教史

イエス・キリストの死と復活を説き、普遍宗教への道を開いた使徒パウロ。古代ギリシア哲学を摂取し、教義の確定に与った教父アウグスティヌス。アリストテレス哲学を用いて神学を集大成した、スコラ哲学の高峰トマス・アキナス。原点としての聖書に立ち返り、カトリック教会支配からの脱皮を図った改革者ルターなどを核にキリスト教思想史を辿り、それがいかにヨーロッパ精神の源泉となっているかを明らかにする。

AA012 東洋思想史

中国の思想を儒教的な文脈で集大成した朱子学の思想的構成を考察し、さらに、朱子学の解体過程に登場する陽明学の思想的特徴を分析しながら、中国近代思想を概観する。さらに、朱子学には、どのような哲学的な論争が存在しているのかをテキストから読み解きながら、同時に、そのような論争が今日の私たちにどのような示唆を与えうるのかを考察する。

特殊講義

AA101 哲学特論(存在論) AI

現代哲学の諸問題を講ずる。フッサールからハイデガー、サルトル、メルロ・ポンティ、さらにアーレントへと引き継がれた現象学の思潮を、その可能性において見届けたい。「世界」の概念を中心テーマに取り上げる。現象学の「源流」としての古代哲学、とくにアリストテレスの存在論にも目を配りつつ、『イデーオン』、『存在と時間』、『人間の条件』等を読み解く。

AA102 哲学特論(存在論) AII

「哲学特論(存在論) AI」に引き続いて、現代哲学の諸問題を講ずる。フッサールからハイデガー、アーレントへと引き継がれた現象学の思潮を、その可能性において見届けたい。「直観と行為」を中心テーマに取り上げる。現象学のルーツである古代哲学、とくにアリストテレスによる観照的生と活動的生の区別も押さえつつ、『イデーオン』、『存在と時間』、『人間の条件』等を読み解く。

AA103 哲学特論(存在論) BI

二十一世紀における哲学の可能性を論ずる。ニーチェ、ヤスパース、ハイデガー、九鬼、和辻、アーレント、ヨーナスらによって展開された実存思想を、そのアクチュアリティにおいて続行する。「死と誕生」を中心テーマに取り上げる。生命倫理や環境倫理、世代間倫理等の問題にも踏み込んでいく。『ツアラトゥストラはこう言った』、『存在と時間』、『偶然性の問題』、『倫理学』等の著作を主に取り上げる。

AA104 哲学特論(存在論) BII

「哲学特論(存在論) BI」に引き続いて、現代における哲学の可能性をさぐる。ヤスパース、ハイデガー、アーレント、ヨーナスらによって展開された実存思想を、そのアクチュアリティにおいて続行する。「終末と原初」を中心テーマに取り上げる。生命倫理や環境倫理、世代間倫理、戦争とテロルの問題にも踏み込んでいく。『哲学』、『哲学への寄与』、『責任という原理』等の著作が主に取り上げられる。

AA105 哲学特論(生命論) AI

空間と身体の問題を、哲学的・思想史的に考察する。日常言語に深く根ざした空間と身体の問題を哲学的に解きほぐす作業を通じて、人間の存在のあり方を探求する。題材としては、アリストテレス以来の「場」の思想を跡付けるとともに、デカルト以降の近代の身体観を丁寧に検討し、現代の哲学的思索の成果を批判的に評価する。同時に、社会学、歴史学、心理学、教育学など周辺領域の諸科学の見地も取り入れ、多角的かつ多層的に、人間のあり方を見極めることを試みる。

AA106 哲学特論(生命論) AII

空間と身体の問題を、哲学的・思想史的に考察する。日常言語に深く根ざした空間と身体の問題を哲学的に解きほぐす作業を通じて、人間の存在のあり方を探求する。題材として実践的な空間移動の場面を取り上げて、歴史的事象との絡みの中で人間がどのように空間を理解し、その中で生き、また自身の身体を捉えてきたかということ扱う。これを通じて、理論的な考察と連動する形で人間の身体的営みの構造と意味を明らかにすることを目指す。

AA107 哲学特論(生命論) BI

生命に関する哲学、倫理的な諸問題について、歴史的、理論的、実践的な検討を加える。生命はさまざまなアプローチを可能とするが、むしろ多角的な検討をこそ必要とするものであり、できる限り多くの面から考えることを試みる。この学期では、生命がどのように扱われてきたかを、歴史的な研究を踏まえながら、古今東西の学説を取り上げる。それぞれの題材には歴史的経緯や異分野連携・融合という厄介な問題が絡んでいるが、現代的な視点を十分に意識しつつ扱う。

AA108 哲学特論(生命論) BII

生命に関する哲学、倫理的な諸問題について、歴史的、理論的、実践的な検討を加える。生命はさまざまなアプローチを可能とするが、むしろ多角的な検討をこそ必要とするものであり、できる限り多くの面から考えることを試みる。この学期では、生命にかかわる実践的な場面に焦点を当て、生命倫理の諸問題からいくつか取り上げる。学生はテーマに関する情報を自ら収集し、発表や議論を通じて考え方を練り上げることが求められる。これによって自分で問題を考える力を養うことを目指す。

AA109 哲学特論(科学論) AI

今日、コンピュータサイエンスやDNAによる生命解読、脳科学の発展にともなって、ふたたび「心とは何か」という問いが時代の大きな関心となっているように思われる。この科学の側からする<心>へのアプローチは基本的に唯物論(物理主義)的である。この授業では、アリストテレス『デ・アニマ』(心とは何か)を軸にすえ、イスラム世界でのその受容と解釈、中世ヨーロッパへの流入とトマスの『デ・アニマ』注解の問題までを総覧する。

AA110 哲学特論(科学論) AII

今日、コンピュータサイエンスやDNAによる生命解読、脳科学の発展にともなって、ふたたび「心とは何か」という問いが時代の大きな関心となっているように思われる。この科学の側からする<心>へのアプローチは基本的に唯物論(物理主義)的である。この授業では、アリストテレス『デ・アニマ』(心とは何か)を軸にすえ、安土桃山時代のきりしたん版『デ・アニマ』、デカルトの心身二元論、そして今日の「心の哲学」の問題までを総覧する。

AA111 哲学特論(科学論)BI

デジタルテクノロジーの出現や医療技術の飛躍的進展によって、時代は大きく変化したが、哲学や思想はこのような変化とどのような関わりを持っているのだろうか。このような視点から、あらためて、プラトンやアリストテレス、ライプニッツ、パスカル、カントらの思想を検討し、問題をそれぞれが自分自身で考えられることを目指す。

AA112 哲学特論(科学論)BII

デジタルテクノロジーの出現や医療技術の飛躍的進展によって、時代は大きく変化したが、哲学や思想はこのような変化とどのような関わりを持っているのだろうか。哲学の古典的テキストを読み解くことによって、現代という時代特有の問題にどのような光をあてることができるかを示し、問題をそれぞれが自分自身で考えられることを目指す。

AA113 倫理学特論AI

近代日本を代表する哲学者、西田幾多郎について学ぶ。西田は、西洋哲学を深く広く学ぶとともに、日本仏教特に禅の思想にも深い思索を続け、単なる東西融合には終らない独自の哲学を築くこととなり、また多くの思想的後継者を生み出して、「京都学派」とよばれる系譜をも形成することになった。こうした西田の思想から、「純粹経験」論、「場所」論、東西文明論、他者論、創造論、生命論、宗教論などをめぐる彼の思索を紹介し、その現代的意義について考える。

AA114 倫理学特論AII

戦前における最も独創的な哲学者の一人である三木清について学ぶ。三木は西田幾多郎の愛弟子でありながら、西田哲学を抜け出して新たな体系を打ち立てようと悪戦苦闘した。ドイツでの研究を通じて古典から時代の最前線に至る西洋思想を学び、それを糧に日本でいかなる哲学が可能かを模索した三木について、その宗教論、歴史哲学、文学論、構想力論などを紹介し、前期で学んだ西田哲学と比較しながら、その現代的意義について考える。

AA115 倫理学特論BI

昭和時代の日本を代表する哲学者である九鬼周造について学ぶ。九鬼は長期にわたりドイツ・フランスで伝統的な学問を学ぶとともに、最先端の哲学にも、西洋哲学の精緻な研究を身に付けた。一方で、日本の古典文化の神髄を見極める作業にも精力を傾け、「いき」という特殊な概念に日本的なあり方の核心をつかんだ。九鬼はこのような両義的精神をあえて統一せず、「二元性」のままとどめて発展させた。こうした独自の哲学世界を紹介しつつ、現代において理解されるべき意義についても可能性を探る。

AA116 倫理学特論BII

戦後の日本の倫理学の確立に大きな役割を果たした和辻哲郎について学ぶ。倫理学を人と人との「間」に存する間柄についての研究と位置づけ、その意味での「人間」の概念のもとに歴史的・地理的多様性をも含み込む和辻倫理学は、西洋の倫理学がたどってきた規範中心の考え方とは大きく異なるものであ

る。和辻の倫理学がもたらしたさまざまな成果は、古今東西の文化的営為や、自然風土のあり方にまで射程が及ぶ広いものである。こうした和辻倫理学が現代に問うたものを探る。

AA117 美学特論AⅠ

芸術学ならびに芸術史における諸問題のなかから、基本的と思われる問題を選び、それを中心に考察することによって、問題の理解を深めるとともに、それを通して、美と芸術の多様な側面を学ぶことを目的とする。とくに美術理論における理論的諸問題を取り上げることになるが、図版、映像などを通し具体的な事例を提示することによって、たんに理論としてだけではなく、作品に即して考察することに習熟させ、学生の美術に対する関心を養う。

AA118 美学特論AⅡ

「美学特論 A」に引き続いて、芸術学ならびに芸術史における諸問題のなかから、基本的と思われる問題を選び、それを中心に考察することによって、問題の理解を深めるとともに、それを通して、美と芸術の多様な側面を学ぶことを目的とする。とくに美術史における理論的諸問題を取り上げることになるが、図版、映像などを通し具体的な事例を提示することによって、たんに理論としてだけではなく、作品に即して考察することに習熟させ、学生の美術に対する関心を養う。

AA119 美学特論BⅠ

美学における諸問題のなかから、基本的と思われる問題を選び、それを中心に考察することによって、問題の理解を深めるとともに、それを通し、美と芸術の多様な側面を学ぶことを目的とする。美と芸術に関して理論的に考察することになるが、副次的には、学生の美と芸術に対する感性を養うことも目指す。そこで、美術、文学、音楽、映画等具体的な事例を使用して作品鑑賞の仕方を学ぶとともに、具体事例にそくした問題考察の仕方を学ぶ。

AA120 美学特論BⅡ

芸術学における諸問題のなかから、基本的と思われる問題を選び、それを中心に考察することによって、問題の理解を深めるとともに、それを通して美と芸術の多様な側面を学ぶことを目的とする。芸術を理論的に考察することになるが、副次的には、学生の芸術に対する感性を養うことも目指す。この講義では文学、音楽、映画等のさまざまな個別芸術にそくして、問題を考察する予定であり、作品の鑑賞の仕方を学ぶとともに、個々の芸術分野にいかなる問題があるかを学ぶことになる。

AA121 キリスト教学特論AⅠ

キリスト教思想の源泉をさぐる旧約聖書学の特殊講義。古代イスラエルの宗教思想の発展過程で、バビロン捕囚時代、ペルシア時代、ヘレニズム時代、と時代が下るにつれて、黙示思想が豊かに開花し、発展を遂げ、初期ユダヤ教や新約聖書の思想に大きな痕跡を遺した。この黙示思想の系譜を辿る。テキストとして、『旧約聖書』および『旧約聖書統編』を用いる。出席者のあいだでの討論も重視したい。

AA122 キリスト教学特論AII

古代イスラエルの宗教思想の発展過程で、バビロン捕囚時代、ペルシア時代、ヘレニズム時代、と時代が下るにつれて、黙示思想が豊かに開花し、発展を遂げ、初期ユダヤ教や新約聖書の思想に大きな痕跡を遺した。「キリスト教学特論 A」に引き続いてこの黙示思想の系譜を辿る。テキストとして、『旧約聖書』および『旧約聖書続編』を用いる。出席者のあいだでの討論も重視したい。

AA123 キリスト教学特論BI

キリスト教と現代をめぐる聖書研究の立場からの試論。現代社会の死生観、性、ジェンダー、経済、社会倫理、環境問題について、聖書あるいはキリスト教はどのような視点・視座を提供できるかを検討する。参加者の関心により、仏教やイスラム教の考え方にもふれたい。併せて、フェミニストによる聖書研究が、従来の聖書学の方法論では見えてこなかった新しい知見をもたらし、新地平を切り拓いたことを評価・再検討する。

AA124 キリスト教学特論BII

「キリスト教学特論 B」に引き続いて、現代社会の死生観、性、ジェンダー、経済、社会倫理、環境問題について、聖書あるいはキリスト教はどのような視点・視座を提供できるかを検討する。参加者の関心により、仏教やイスラム教の考え方にもふれたい。併せて、フェミニストによる聖書研究が、従来の聖書学の方法論では見えてこなかった新しい知見をもたらし、新地平を切り拓いたことを評価・再検討する。

AA125 思想史特論AI

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的研究の方法に習熟することを図る。この授業ではとくに哲学史の領域から主題を選択し、哲学特論等の講義と連携を図る。

AA126 思想史特論AII

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的研究の方法に習熟することを図る。「思想史特論 A」に引き続いて哲学史の領域から主題を選択し、哲学特論等の講義と連携を図る。

AA127 思想史特論BI

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、

学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的 연구の方法に習熟することを図る。この授業ではおもに美学史、東洋思想史の領域から主題を選択する。

AA128 思想史特論BII

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的 연구の方法に習熟することを図る。この授業ではおもに倫理思想史、東洋思想史などの領域から主題を選択する。

AA129 思想史特論CI

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的 연구の方法に習熟することを図る。この授業では哲学、美学、倫理学などの領域から主題を選択する。

AA130 思想史特論CII

問題を深く理解するためには、歴史的な由来の知識が必須である。「思想史特論」は狭義の哲学だけではなく、広く芸術論、倫理学、宗教などの思想文化の歴史における重要な主題を選び、それについて学ぶことによって、学生の多面的な関心に答えるとともに、視野を拡大することを目的とする。また同時に、学生の知識に歴史的深みを与え、歴史的 연구の方法に習熟することを図る。この授業は、「思想史特論C」を受け、美学、倫理学などの領域から主題を選択する。

基盤演習

AA201 哲学基礎演習

「人文学基礎演習」を前提に、哲学的学問を学んで行くための最初の手ほどきを行うことを目的とする。このため、人文学と哲学との関わりについて学ぶことから始める。つぎに、プラトン、アリストテレス、デカルトなど哲学の古典的なテキストを選んで読み、またこれをもとにディスカッションを行うことによって、哲学の書物の読解の仕方を学ぶとともに、哲学の基本的な概念の習得、哲学的な把握、思考法の習熟を図り、以後の学習の基礎を養成する。

AA202 2年次演習(哲学)I

1年次の「哲学基礎演習」に続く、哲学専攻の2年次向けの哲学書講読初級ゼミ。ニーチェの主著の一つ『楽しい学問』(従来の邦訳では『悦ばしき知識』)をじっくり読み込んで、3年次以降で履修する哲学専攻のより専門的な演習に参加するための下準備としたい。哲学のみならず、文学、歴史にまたがる教養を読

者に要求するニーチェの難解なテキストを、丹念に読みとくことで、古典を読む厳しさと喜びを体得させる。

AA203 2年次演習(哲学)II

「2年次演習(哲学)I」に続く、哲学専攻の2年次向けの哲学書講読初級ゼミ。ニーチェの主著の一つ『楽しい学問』(従来の邦訳では『悦ばしき知識』)をじっくり読み込んで、3年次以降で履修する哲学専攻のより専門的な演習に参加するための下準備としたい。哲学のみならず、文学、歴史にまたがる教養を読者に要求するニーチェの難解なテキストを、丹念に読みとくことで、古典を読む厳しさと喜びを体得させる。

発展演習

AA301 哲学演習(英語文献)A

英語文献を扱う、3年次以降対象の原書講読の中級ゼミ。ハンナ・アーレントの主著『人間の条件』(初版1958年)を、英語版 The Human Condition(2. Edition, The University of Chicago Press, 1998)でじっくり読んでいく。日本語訳(ちくま学芸文庫)も参照してよい。現代世界の混迷と危機の本質を半世紀前にみごとに言い当てた、二十世紀を代表する哲学書に接して、参加者一人一人が、原初的に思考することの豊かさと広がりを感じつつ、密度の濃いテキストをみずから読み解く技術を身につけることを目指す。

AA302 哲学演習(英語文献)B

英語文献を扱う、3年次以降対象の原書講読の中級ゼミ。ハンナ・アーレントの第二の主著『革命について』(初版1963年)を、英語版 On Revolution(Reprinted in Penguin Books, 1991)でじっくり読んでいく。日本語訳(ちくま学芸文庫)も参照してよい。戦争の時代のみならず革命の時代でもあった二十世紀の真只中に書かれた革命論の古典に接して、二十一世紀における政治哲学の可能性をさぐるとともに、革命を遠望しつつ、参加者一人一人が、密度の濃いテキストをみずから読み解く技術を身につけることを目指す。

AA303 哲学演習(独語文献)A

哲学書の金字塔と呼ばれる、カントの『純粋理性批判』を原書講読する。ドイツ哲学を学ぶだけでなく、難解なテキストを読み解く訓練を通じて、読解力や洞察力を深めることも目的とする。適宜、英訳や日本語訳も使用し、また種々の研究書も参考にする。二、三回のイントロダクションの後、受講生二人を一組として、担当箇所を決め、その箇所の訳、解説、疑問点をレジユメを作りながら進行する。

AA304 哲学演習(独語文献)B

哲学書の金字塔と呼ばれる、カントの『純粋理性批判』を原書講読する。ドイツ哲学を学ぶだけでなく、難解なテキストを読み解く訓練を通じて、読解力や洞察力を深めることも目的とする。適宜、英訳や日本語訳も使用する。一字一句をじっくり吟味しながら読み進む。読む量よりも読む深さを眼目とする。二、三回のイントロダクションの後、受講生二人を一組として、担当箇所を決め、その箇所の訳、解説、疑問点をレジユメを作りながら進行する。

AA305 哲学演習(仏語文献)A

フランス語を用いて書かれた 17、18 世紀の哲学文献を原語で読む。原語で読むことの意義は、著者のことばに直接触れることによって、語や思想の歴史的な背景も含めて、翻訳だけによっては得られないテキストの読み方が可能になることにある。フランス語は初学者がほとんどであり、テキストの十分な読み込みはたやすいものではないが、じっくりと深く読む訓練を辛抱強く続けることによって、読解の醍醐味を味わうことができるようになることを目指す。

AA306 哲学演習(仏語文献)B

フランス語を用いて書かれた 19、20 世紀の哲学文献を原語で読む。原語で読むことの意義は、著者のことばに直接触れることによって、語や思想の歴史的な背景も含めて、翻訳だけによっては得られないテキストの読み方が可能になることにある。フランス語は初学者がほとんどであり、テキストの十分な読み込みはたやすいものではないが、じっくりと深く読む訓練を辛抱強く続けることによって、読解の醍醐味を味わうことができるようになることを目指す。

AA307 哲学演習(西洋古典語文献)A

西洋古典語(ギリシア語、ラテン語)で書かれた哲学文献を扱う、3年次以降対象の原書講読の中級ゼミ。プラトンの代表的対話篇(『ゴルギアス』、『国家』、『ピレポス』など)をテキストに選び、哲学・倫理学の基本問題を多面的に考える。ギリシア語テキストと各種日本語訳のほか、英文の注釈書や研究論文を交えて検討する。古代哲学を研究するうえでの方法論の基本を押さえるとともに、プラトンのテキストに固有にひそむ解釈上の問題点を扱う。目標は、「いかに生きるべきか」という幸福の問題の追究にある。

AA308 哲学演習(西洋古典語文献)B

西洋古典語(ギリシア語、ラテン語)で書かれた哲学文献を扱う、3年次以降対象の原書講読の中級ゼミ。禁欲主義で知られる古代ローマ時代のストア派の文献を取り上げる。セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウスらのテキストを精読し、「自然と一致した生活」を規範とする人間観を学ぶ。理性と情念、孤独と運命愛などの思索は、後世のモラリストやキリスト教の修道院文化にも絶大な影響を与えた。人生論の古典にふれて哲学の奥行きを確かめたい。ロエブ古典叢書の原典を参看しつつ、各種邦訳を用いる。

AA309 倫理学演習A

倫理学を深く学ぶとともに、問題を自ら考える力を養うことを目指す。倫理学は実際の生活とのつながりを自覚すべきものではあるが、そのためにあえて現実から距離をとって深く広く考えることも必要である。そのためこの演習では、西洋近代の倫理思想を学ぶことを第一の課題とする。抜き書きのつまみ食いの理解ではなく、歴史的背景のもとで個々の思想を全体的に理解することを心がける。同時に、その思想の現代的意義について、発表や議論を交えながら、学生自らの思索に資するものとなることを目標とする。

AA310 倫理学演習B

倫理学を深く学ぶとともに、問題を自ら考える力を養うことを目指す。倫理学は実際の生活とのつながりを自覚すべきものではあるが、そのためにあえて現実から距離をとって深く広く考えることも必要である。そのためこの演習では、西洋現代の倫理思想を学ぶことを第一の課題とする。抜き書きのつまみ食いの理解ではなく、歴史的背景のもとで個々の思想を全体的に理解することを心がける。同時に、その思想の現代的意義について、発表や議論を交えながら、学生自らの思索に資するものとなることを目標とする。

AA311 美学演習A

美学に関わるプラトン以来現代に至る古典的、基本的な書物のなかからテキストを選んで読み進めるとともに、それをもとに美学の諸問題について報告、ディスカッションを行うという形で授業を進めるが、美学文献の読解の仕方に習熟するとともに、美学における問題の立て方、考察の方法を学ぶことを目的とする。外国文献は良質の日本語訳があればそれを使用することもあるが、英語その他のテキストをも使用する。

AA312 美学演習B

美術理論、音楽理論など各個別芸術学に関係するテキストを読み進めるとともに、それをもとに報告、ディスカッションを行うという形で授業を進める。これによって芸術学の文献の読解の仕方に習熟するとともに、芸術学における問題の立て方、考察の方法を学ぶことを目的とする。外国文献は良質の日本語訳があればそれを使用することもあるが、英語その他のテキストをも使用する。

AA313 キリスト教学演習A

パウロの信仰義認論をめぐる近年の議論を踏まえつつ、新約聖書に保存されたパウロ書簡の関連テキストを釈義的に検討することで、キリスト教の本質に関する理解を深める。このために、近年の研究史に関する概観を行う。毎回の担当者は、少なくとも指定されたすべての註解書を参照した上で、レジユメを用意し、独自の釈義を提示する。その後、参加者全員で討議を行う。

AA314 キリスト教学演習B

パウロの信仰義認論をめぐる近年の議論を踏まえつつ、新約聖書に保存されたパウロ書簡の関連テキストを釈義的に検討することで、キリスト教の本質に関する理解を深める。このために、パウロの真正書簡より、主題との関連で重要な箇所を選び、ゼミ形式による共同の釈義に付す。毎回の担当者は、少なくとも指定されたすべての註解書を参照した上で、レジユメを用意し、独自の釈義を提示する。その後、参加者全員で討議を行う。

AA315 思想史演習A

明治の思想家、中江兆民は「わが日本いにしえより今にいたるまで哲学なし」と語っている。確かに「哲学」という言葉自体、明治始めに西周によって考案されたものである以上、兆民の発言は正しいが、では、明治時代以前に日本には「哲学」にあたるようなものは存在しなかったのだろうか。演習はこの問いを出発点として、古事記、キリシタン文書など多岐にわたる著作を取り上げ日本の「哲学」について検討する。

AA316 思想史演習B

明治の思想家、中江兆民は「わが日本いにしえより今にいたるまで哲学なし」と語っている。確かに「哲学」という言葉自体、明治始めに西周によって考案されたものである以上、兆民の発言は正しいが、では、明治時代以前に日本には「哲学」にあたるようなものは存在しなかったのだろうか。演習はこの問いを出発点として、江戸時代の国学や蘭学、西周の諸著作など多岐にわたる著作を取り上げ日本の「哲学」について検討する。

特殊演習

AA401 4年次特殊演習(哲学)

4年間の学習の成果の結実が卒業論文となる。そこで、卒業論文の作成を前提に、各自の問題意識に応じた問題をいかに選び、思考をどのように進め、論の展開をいかに展開するかを実地に指導するとともに、随時、各自の研究結果を報告し、相互に批判検討しながら作業を進めて行く。また、たんに内容的な事柄ばかりではなく、論文の書き方、資料の調査方法とその取り扱い方など研究を進める上での基礎的な手続きに学生が習熟することを目指す。

日本文学専攻

基盤講義

AB001 日本語史入門

日本語史に関する基本的な知見を身につけることを目標とする。日本語史研究の一分野である文字史をとりあげ、その史的展開を学びつつ、日本語が歴史的にどう変化し、又、それを変化させた要因は何かを講ずる。具体的には、漢字、万葉仮名、平仮名、片仮名、ローマ字、諸符号、仮名遣い等の史的展開をテキストの項目に従って補助プリントも併用しながら進める。各時代の代表的な写本の複製資料を配布し、受講生に積極的に読み込む作業を課しながら、日本語の変化を理解する。

AB002 日本語文法入門

日本語の文法に関する基本的な知見を身につけることを目標とする。現代日本語の文法について、いわゆる学校文法とは異なる考え方を提示し、文法とは何かを考えるきっかけを与える。規範文法ではなく、記述文法としての文法の在り方を示すことにより、自ら問題を発見し解決する態度を養う。高校までの学校教育における国語教育、非母語話者への日本語教育、コンピュータによる日本語処理等の応用分野も視野に入れつつ考察する。また、レポートの書き方の一般的指導も行う。

AB003 日本古典文学入門

比較的平易な日本古典文学作品を、実際に数多く読解する作業を通して、高校までに学んだ古典文法などの知識を振り返りつつ、古典文学読解のための基礎的な能力を身につけることを目的とする。変体仮名で書かれた百人一首の版本の読解及び暗記によって、古典籍の実際にふれるとともに、古典和歌を読む際に必要な修辞法の知識や、和歌的な発想について理解する。また説話など、長めの散文を読むことで、多読と精読、それぞれのスキルを身につけ、古典文学作品を批評的に読む目を養う。

AB004 日本近現代文学入門

近代文学研究の基礎知識と方法を身につけるとともに、女性学・ジェンダー的視点からの近代文学読み直しを図る。具体的には、漱石や芥川や川端、田村俊子や尾崎翠などの近代作家たちの短編小説のうち、特に社会的役割(娘・母・嫁・姑・妹・兄嫁など)や、条件(階級・貧富・年齢・容貌など)の異なる女性が主人公の作品を、時代順に取り上げて分析解釈し、それぞれの時代が担っていたジェンダー規制がどういうもので、文学がそれをどのように表現し、相対化しようとしてきたかを明らかにする。

AB005 漢文学入門

漢文学のさまざまな分野について、基礎的な学習をする。まず漢文訓読法の知識を復習しながら、平易な文章を読解する。その上で、中国古典文学・思想・歴史の各分野の代表的な文献を読み、中国古典の発想や論理・美意識について理解する。『唐詩三百首』『古文真宝』『論語』『老子』『史記』『搜神記』等か

ら分かりやすい部分を選び、独特な発想・論理展開・修辞法等に触れ、多読することを基本としながらも、辞書・注釈・索引・関係資料の調査をふまえての精読をまじえ、中国古典を読解する力を養う。

AB006 日本語学概論Ⅰ

我々が日常用いている言語である日本語を、様々な角度から考究する。日本語学という学問分野を紹介するという側面と、日本語についての最低限の知識を習得してもらうという側面の、(だいたひ方向性の異なる)二つの側面を有する。日本語学を専門的に学んでいく者にとっては、基盤となる知識の習得を目指し、他の分野を専門的に学んでいく者にとっては、日本語についてより深く考えるきっかけをつくる。本講義では、現代語を中心に、音声・音韻論、文字・表記論、語彙論、文法論について講ずる。

AB007 日本語学概論Ⅱ

我々が日常用いている言語である日本語を、様々な角度から考究する。日本語学という学問分野を紹介するという側面と、日本語についての最低限の知識を習得してもらうという側面の、(だいたひ方向性の異なる)二つの側面を有する。日本語学を専門的に学んでいく者にとっては、基盤となる知識の習得の場となり、他の分野を専門的に学んでいく者にとっては、日本語についてより深く考えるきっかけとなるであろう。本講義では、現代語を中心に、文法論、意味論、運用論について講ずる。

AB008 日本語史概論Ⅰ

日本語は時の流れにともなって様々に変化してきている。こうした日本語の言語変化を明らかにするのが日本語史であり、その基本的な知識を身につけることを目標とする。日本語は従来、古代語と近代語とに二大区分がされるが、それに過渡期中世語を入れることも行われる。言語の史的な展開の実態と変化の要因とを、研究に主に取り上げられてきた文学作品のみならず、関連する分野の日本史や仏教史の史料の古文書や仏教者遺文なども積極的に扱って講義する。文字・音韻・文法の各部門を講義する。

AB009 日本語史概論Ⅱ

日本語は時の流れにともなって様々に変化してきている。こうした日本語の言語変化を明らかにするのが日本語史であり、その基本的な知識を身につけることを目標とする。日本語は従来、古代語と近代語とに二大区分がされるが、それに過渡期中世語を入れることも行われる。言語の史的な展開の実態と変化の要因とを、研究に主に取り上げられてきた文学作品のみならず、関連する分野の日本史や仏教史の史料の古文書や仏教者遺文なども積極的に扱って講義する。語彙・文章文体・待遇表現・言語生活の各部門を講義する。

AB010 日本文学概論(古典)Ⅰ

日本古典文学のうち、主として古代(奈良～院政期の前まで)の文学についての基礎的な知識を学ぶことを目標とする。日本神話、和歌文学、物語文学、日記文学などをとりあげる。いかなる社会情勢、慣習、価値観の影響を受けて、どのような特徴を有する文学作品が生まれたのか。文学上の劃期をもたらした、注目すべき出来事は何か。また、そうして生まれた古典文学作品は、どのような価値観や慣習をもたらし、後世にいかなる影響を与えたかなどについて、文学作品に即しつつ論じていく。

AB011 日本文学概論(古典)II

日本古典文学のうち、主として中近世(院政期～江戸)の文学についての基礎的な知識を学ぶことを目標とする。説話、歴史物語、和歌文学、御伽草子、浮世草子、読本などをとりあげる。いかなる社会情勢、慣習、価値観の影響を受けて、どのような特徴を有する文学作品が生まれたのか。文学上の劃期をもたらした、注目すべき出来事は何か。また、そうして生まれた古典文学作品は、どのような価値観や慣習をもたらし、後世にいかなる影響を与えたかなどについて、文学作品に即しつつ論じていく。

AB012 日本文学概論(近現代)I

日本の近現代文学について、広く基礎的な知見を身につけることを目標とする。明治・大正期から昭和期に至る代表的作家の文学作品を時代順に取り上げ、一つ一つ具体的に分析し、それらの芸術的特質や文学的意義を明らかにする。また、該当期の日本近代文学が全体としてどのような歴史を形作ってきたかを解明する。特に、大正期についてはその文学的成熟度の高さを作品分析を通して示し、昭和期については戦前を解体、戦後を再生という枠組みで捉え、それらを作品によって跡付けてゆく。

AB013 日本文学概論(近現代)II

日本の近現代文学について、広く基礎的な知見を身につけることを目標とする。昭和期から現代に至る代表的作家の文学作品を時代順に取り上げ、一つ一つ具体的に分析することによって、それらの芸術的特質や文学的意義を明らかにする。また、該当期の日本近代文学が全体としてどのような歴史を形作ってきたかを解明する。特に、昭和期については戦前を解体、戦後を再生という枠組みで、それ以降現代に至る過程については<近代>の融解という視点で捉えてゆく。

AB014 中国文学概論I

中国文学の歴史とジャンルについて、基礎的な知識を身につける。主として古代・中世の文学を中心に学び、『詩経』以来の古典詩、諸子百家以来の散文、『春秋左氏伝』『史記』等の歴史文学等を取りあげる。それぞれの文学作品・文献の特徴を原文に即して読解し、その成立の文化的背景、社会情勢、慣習等にも立ち入って考察する。また、それぞれの作品が同時代や後世に与えた影響について分析し、中国文学の全体像をとらえられるようにする。中国文学の豊かさと価値を、作品に即しながら、新鮮な視点から問いなおす。

AB015 中国文学概論II

中国文学の歴史とジャンルについて、基礎的な知識を身につける。主として近世・近代の文学を中心に学び、古典文語小説と白話小説、宋词や元曲等の歌曲、近代小説の発生と展開等の問題をとりあげる。それぞれの文学作品・文献の特徴を原文に即して読解し、その成立の文化的背景、社会情勢、慣習等にも立ち入って考察する。また、それぞれの作品が同時代や後世に与えた影響について分析し、中国文学の全体像をとらえられるようにする。中国文学の豊かさと価値を、作品に即しながら、新鮮な視点から問いなおす。

AB016 中国語学概論Ⅰ

中国の文化は、日本の文化の形成にとって、不可欠な影響を与え続けてきた。漢語は、既に日本語の一部であるという過言ではない。その中国語の特徴について、さまざまな角度から検討し、基礎的な学習をする。中国語の語法的特徴、語彙の変化、音韻の構造などにつき、概観する。特に現代中国語の文法的な特徴について考え、日本語や英語との比較を交えながら考察する。全体を概観しながら、文法・語用論について主に検討することとする。

AB017 中国語学概論Ⅱ

中国の文化は、日本の文化の形成にとって、不可欠な影響を与え続けてきた。漢語は、既に日本語の一部であるという過言ではない。その中国語の特徴について、さまざまな角度から検討し、基礎的な学習をする。中国語の語法的特徴、語彙の変化、音韻の構造などにつき、概観する。特に現代中国語の文法的な特徴について考え、日本語や英語との比較を交えながら考察する。全体を概観しながら、語彙・音韻について主に検討することとする。

AB018 日本文化学概論Ⅰ

明治開国から関東大震災にいたる日本近代文学発展の経過を、それにかかわるさまざまな諸文化事象とのかかわりにおいて概説していく。具体的には、日本社会全体の近代化、西欧化がおよぼした作用、伝統日本文化の残存、新聞や雑誌などのメディアとの関係、美術や音楽や映画など諸芸術との相互作用、哲学や民俗学など隣接学問との関連、戦争や震災など社会変動の反映、世界文学の展開との比較、日本人の外国体験と外国人の日本体験、内外の日本文化論などの諸方面からの検討の可能性を実例に即しながら論じていく。

AB019 日本文化学概論Ⅱ

関東大震災後から現代にいたる日本現代文学発展の経過を、それにかかわるさまざまな諸文化事象とのかかわりにおいて概説していく。具体的には、日本社会全体の近代化、西欧化がおよぼした作用、伝統日本文化の残存、新聞や雑誌などのメディアとの関係、美術や音楽や映画など諸芸術との相互作用、哲学や民俗学など隣接学問との関連、戦争や震災など社会変動の反映、世界文学の展開との比較、日本人の外国体験と外国人の日本体験、内外の日本文化論などの諸方面からの検討の可能性を実例に即しながら論じていく。

特殊講義

AB101 現代日本語(語彙・表記) A1

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。特に現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるように導く。本講義では、主に文字・表記論的分野のトピックを扱う。談話的視点も取り入れ、広い視野で捉える。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB102 現代日本語(語彙・表記) AII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文字・表記論的分野のトピックを扱う。談話的視点も取り入れ、広い視野で捉える。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB103 現代日本語(語彙・表記) BI

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に語彙論的分野のトピックを扱う。談話的視点も取り入れ、広い視野で捉える。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB104 現代日本語(語彙・表記) BII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に語彙論的分野のトピックを扱う。談話的視点も取り入れ、広い視野で捉える。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB105 現代日本語(語彙・表記) CI

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に意味論的分野のトピックを扱う。語の意味、文の意味、文章の意味について考究する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB106 現代日本語(語彙・表記) CII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に意味論的分野のトピックを扱う。語の意味、文の意味、文章の意味について考究する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB107 現代日本語(文法・談話) AI

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法論的分野のトピックを扱う。文-文法のみでなく、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB108 現代日本語(文法・談話) AII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法論的分野のトピックを扱う。文-文法のみでなく、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB109 現代日本語(文法・談話) BI

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文章・談話論的分野のトピックを扱う。話しことば・書きことばの違いや位相について考察する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB110 現代日本語(文法・談話) BII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文章・談話論的分野のトピックを扱う。話しことば・書きことばの違いや位相について考察する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB111 現代日本語(文法・談話) CI

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて、講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に運用論的分野のトピックを扱う。文字通りの意味の分析を超えた、文脈や場に支えられた話し手の意図を探る方法について考察する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

AB112 現代日本語(文法・談話) CII

我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に運用論的分野のトピックを扱う。文字通りの意味の分析を超えた、文脈や場に支えられた話し手の意図を探る方法について考察する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

AB113 日本語史(古代中世) AI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は上代から中古、中世まで、特に上代を中心とする。

AB114 日本語史(古代中世) AII

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世(鎌倉・室町時代)で、とくに鎌倉時代に重点をおく。

AB115 日本語史(古代中世) BI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は上代から中古、中世まで、とくに中古を中心とする。

AB116 日本語史(古代中世) BII

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方

等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世(鎌倉・室町時代)で、とくに鎌倉後期から南北朝期に重点をおく。

AB117 日本語史(古代中世)CI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は上代から中古、中世まで、とくに中世(院政期)に重点をおく。

AB118 日本語史(古代中世)CII

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世(鎌倉・室町時代)で、とくに室町時代に重点をおく。

AB119 日本語史(中近世)AI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世から近世で、とくに応仁の乱以降に重点をおく。

AB120 日本語史(中近世)AII

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱うのは各時代の文字、音韻、文法、待遇表現、語彙、文章文体、言語生活である。扱う時代は上代から院政期に重点をおく。

AB121 日本語史(中近世)BI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世から近世で、とくに江戸前期に重点をおく。

AB122 日本語史(中近世)BI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱うのは各時代の文字、音韻、文法、待遇表現、語彙、文章文体、言語生活である。扱う時代は中世に重点をおく。

AB123 日本語史(中近世)CI

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱う時代は中世から近世で、特に江戸時代に重点をおく。

AB124 日本語史(中近世)CII

上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、諸種の文学作品のみならず、古文書や仏教者遺文等にも資料の視野を広げて、その実態と特徴とを講義する。直接に文献に触れることが重要であり、積極的に複製本のプリントを配布し、それを受講生と読解しながら分析していく。併せて、各時代語の特徴を的確に論述している先行研究を取り上げ、資料の調査方法、分析の視点と方法、記述の仕方、論述のまとめ方等を紹介する。更に、日本語の変遷を捉えるには、何を追求していくのが重要かを考える。扱うのは各時代の文字、音韻、文法、待遇表現、語彙、文章文体、言語生活である。扱う時代は近世に重点をおく。

AB125 日本文学(上代)AI

7世紀後半、この列島内に新たに立ち上げられた「日本」の最初の文芸となったのが、5 - 7の定型を持つ和歌である。中国文明の文芸と対峙しながら、作り上げられる「日本」文学のアイデンティティを、「万葉集」の歌と中国文学との関係を通して考察する。壬申の乱以前の歌、額田王を中心とする「初期万葉」と、その後を引き継いで現れる柿本人麻呂を中心とする万葉第二期の歌とについて、中国詩文をいかに受容し、変容させているかを見合わせながら考察する。

AB126 日本文学(上代) AII

新たに立ち上げられた「日本」の最初の文芸である和歌は、奈良時代に入ると、中国文学と張り合いながら共存し、そこから多くの方法を学んでゆく。その時代の「万葉集」の歌と中国文学との関係を通して、「日本」文学のアイデンティティとは何かを考えることを目標とする。具体的には、漢詩人でもあった大伴旅人、遣唐使の経験を持つ山上憶良によって開かれた「大宰府歌壇」において、漢詩文と和歌とがいかにコラボレートされているか、またその後継者大伴家持においてはどうか、などを中心とする。

AB127 日本文学(上代) BI

7世紀後半、この列島内に新たに立ち上げられた「日本」の最初の文芸となったのが、5 - 7の定型を持つ和歌である。中国文明の文芸、漢詩文と張り合いながら、そこから多くを学んで行った和歌は、それ自身、多様な表現方法を作り出して行かねばならなかった。その主なものは、前代から引き継ぎつつ改鑄を加えた枕詞や序詞であり、長歌における対句である。特に万葉第二期の歌人である柿本人麻呂の作品に即して、彼が作り出した和歌の方法について考察する。

AB128 日本文学(上代) BII

7世紀後半、この列島内に新たに立ち上げられた「日本」の最初の文芸となったのが、5 - 7の定型を持つ和歌である。中国文明の文芸、漢詩文と張り合いながら、そこから多くを学んで行った和歌は、それ自身、多様な表現方法を作り出して行かねばならなかった。漢詩文から学んだ方法としては、自然の物象・景物に対して比喩的關係を結ぶことが挙げられる。直喩・隠喩・擬人法など、多様な比喩法が、万葉集の歌には見られる。特に奈良時代の歌について、それを観察する。

AB129 日本文学(上代) CI

八世紀初頭に、二つの史書が完成し、今日に伝わっている。古事記と日本書紀である。その二書には、ともに多くの歌謡が採録されている。それらは、歴史上の登場人物の心情を語るものとして載せられているのであり、物語の重要な構成要素となっている。ただし歌謡は、そもそもは、集団によって歌われるものであって、個人の感情を歌うものではなかったもので、古事記・日本書紀の文脈と、その歌との間には、しばしば矛盾やずれが指摘されている。それを超えて、二書において、歌謡がいかに抒情の方法となっているかを考察する。

AB130 日本文学(上代) CII

和歌における、物語と歌との関係を考察する。短小な短歌は、作られた場に依存し、その説明無しには十分な理解が届かない場合も多かった。逆にそうした場についての語りを歌に付随させることによって、その場における人間の心情を、歌に語らせることもできたのである。万葉集における大津皇子の歌などは、そうした作品と捉えられる。一方、柿本人麻呂に始まり、高橋虫麻呂に受け継がれたのは、長歌によって、叙事的に歌い、物語を志向する作品であった。それら万葉集前期の歌を中心とする。

AB131 日本文学(中古)AI

日本の古代文学のうち、主として平安時代前期(八世紀～十世紀)の物語文学(『竹取』『うつほ』『落窪』)について、基本的な知識を学び、かたがた作品を実際に読むことを通じて、古代物語文学の世界にふれることを目標とする。物語文学は、どのような文学的土壌のなかで生まれたのか。主として勅撰集の撰進を背景に生まれた歌物語、あるいはそれとほぼ同時期に生まれた男性作家の手になる初期物語の特徴と達成について学び、『源氏物語』へと繋がる物語文学の特性を知る。

AB132 日本文学(中古)AII

日本古代後期の物語文学について、深く考察する。特に古代物語文学の傑作、『源氏物語』について学ぶ。具体的には、いわゆる第一部(桐壺～藤裏葉巻)を中心に扱う。和歌文学(『古今集』『後撰集』)、歌物語(『伊勢物語』)、前期物語文学など、先行する文学作品との関係のほか、白楽天を初めとする漢文学との関連を考え、それら先行作品を吸収しながら、いかなる独自の主題が展開されているか、またそれはどのような表現技法によって表現され得ているかを考える。

AB133 日本文学(中古)BI

日本の古代物語文学について、深く考察することを目標とする。物語文学の最高傑作、『源氏物語』の達成を学び、後期物語に与えた影響について考える。特に『源氏物語』の第二部(若菜上～幻巻)及びそこから発展していく宇治十帖の世界を、考究の対象とする。『源氏物語』の主題は、仏教思想など当時の思潮のもと、また第一部で展開された物語世界を承けて、どのように変化していったか。後期物語への継承と断絶を視野に入れながら、『源氏物語』のさらなる達成を探る。

AB134 日本文学(中古)BII

日本の古代文学のうち、主として平安時代後期(十一世紀)の物語文学(『狭衣』『夜の寝覚』『浜松中納言』『とりかへばや』)について学ぶことを目標とする。それぞれの作品の概略を知るとともに、『源氏物語』の影響について学ぶ。『源氏物語』の表現、主題、価値観、発想をいかなる形で受け継ぎ、規制され、また独自の達成をなし得たのか。『源氏物語』の達成を学びつつ、それに強く束縛されながら独自の道を探った後期物語文学を考えることで、女流文学の特性について考える。

AB135 日本文学(中古)CI

日本の古代文学のうち、主として平安時代(十世紀～十一世紀)の女流日記文学・あるいは随筆(『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『枕草子』)について深く考察することを目標とする。どのような文学的土壌のなかで、「私について語る」日記文学が生まれ、また受け継がれていったのかを考える。具体的には、和歌文学、とりわけ物語的私家集や歌物語、漢文日記、初期の物語文学などの影響を考えつつ、「紀行文」「女房日記」にとどまらぬ女流日記の志向について学ぶ。

AB136 日本文学(中古)CII

日本古代の文学史の中で、『蜻蛉日記』を初めとする女流日記文学の伝統が、中世前期(院政期～鎌倉期)において、どのような形で受け継がれたのか、また中世の新しい文学潮流のなかで、どのような変化を

遂げているのかなどを、『讃岐典侍日記』『うたたね』『とはずがたり』などから考える。王朝文化の残照の様相、あるいは王朝女流日記文学との類似点、また逆に中世前期の女流日記文学ならではの達成を確認することを通して、女流日記文学の伝統について考究する。

AB137 日本文学(中世) AI

能楽研究の第一歩として二番目能について考察する。式三番・脇能に続く二番目能には武士の霊をシテとする修羅物とされる夢幻能が多い。武士の霊が生前の戦いの様子を語り、現在落ち着いている修羅道の苦患を訴えるストーリーの作品は『平家物語』に材を取ったものが数多く見出される。「敦盛」「実盛」「兼平」等々の作品世界は現世と来世を自在に行き来する不可思議な世界を形作っている、能は後に江戸幕府の式楽とされるわけであるが、合戦を自己の使命とする武士達にとって、そうした修羅能の世界は我が身につまされるものであったと考えられる。

AB138 日本文学(中世) AII

日本の中世文学、特に能の間にはさまれて上演されていた狂言について考察する。笑いをテーマとする狂言は劇的な葛藤が笑いによって解消されることによって終結する。大名と太郎冠者は主人と奉公人という関係にあって様々な点で対立するが、身分的には下にあるはずの太郎冠者が多くの場合大名を笑いの中でやりこめてしまう。そうしたストーリーの展開の持つ対立的な笑いは、南北朝以降の内乱の時代を生き抜いて来た名主層と下人達の生活の中から生み出されたものであると考えられる。こうした問題を大小名狂言の中に探っていく。

AB139 日本文学(中世) BI

日本の中世文学、特に能について考察する。三番目能は鬘物とされる、優美な女性の霊や女体の精、或いは狂女物以外の女性の現在能が置かれている。『伊勢物語』『源氏物語』などの王朝文学の女性達や祇王・静御前・熊野など『平家物語』のヒロイン、更には小野小町や西行法師と問答を交わした江口の遊女等々、多彩な女性が登場するこれらの能は、二番目物とはうって変わった優艶な世界を作り上げている。舞いを軸に構成される幽玄な三番目能の魅力について検討する。

AB140 日本文学(中世) BII

狂言の世界には遅しく、わわしい女がしばしば登場するが、その女達の人物設定について、中世の社会背景との関係に於いて考察する。太郎冠者を身代わりにして恋人花子に逢いに行っていた男は、妻がすり変わっていることも知らずに花子との逢瀬を語り妻の悪口を云ってしまい、妻に追われて這々の体で逃げ入る(花子)。「黒塗」では別れ話を告げる大名を騙そうと目に水を付けて泣き真似をしていた女が、太郎冠者に水と墨を取り代えられ顔を真黒にしてしまうが、逆切れして、二人の顔に墨を塗りたくって追い込んでいる。

AB141 日本文学(中世) CI

切能とも呼ばれる五番目能について考察する。鬼畜やこれに準ずる人物などの夢幻能で、「鞍馬天狗」「殺生石」「大江山」などがある。四番目物は他の四つ以外の能の総称で、男体の現在能や狂女物などが

ある。代表的なのは、行方不明になった我が子の後を追って京から東国に下り、その死を知って悲嘆にくれる「隅田川」などがある。個々の作品分析に加えて、その日の最後を飾って上演されるこれらの能が、どのような経緯によってここに取り上げられるようになったのかについても考察する。

AB142 日本文学(中世)CII

狂言によって滑稽化された人々の有り様を分析し、狂言的世界の実態について考察する。狂言の中には、『水掛髻』『竹の子』などのように農村の水争いや作物争い、訴訟沙汰などを材とするものが見られる。登場人物も身近な武士や農民が中心で、物売りや在地の住人、山伏や僧侶から盗人など多種多様な人々が登場し、人々の笑いを誘っている。これらはすべてが当時の農村のありのままの姿であったと考えることは出来ないが、庶民生活の端々がそこに描かれているのは間違いないであろう。

AB143 日本文学(近世)AI

仮名草子について考察する。近世初頭に仮名書きで出版された作品類を総称して仮名草子と読んでいる。啓蒙教訓的な作品には儒教や仏教の教義を説いたものがあり、随筆によって教義を説くものや女性教訓書、説話集的作品も残されている。娯楽的な作品には、中世風な物語や笑話集、古典のパロディ類がある。実用本位のものとしては種々の記録類や名所記・見聞記、更には遊女評判記などがある。これら多様なジャンルの作品を分類・整理する試みは様々なされているが、定説を見るには至っていない。

AB144 日本文学(近世)AII

西鶴の『好色一代男』によって成立した浮世草子というジャンルの文学的には必ずしも上質とはされていない作品が流行した文学史的な意味について考察する。西鶴の没後少しずつ変化し、伝奇的な作品や気質物とされる作品を生み出した。気質(カタギ)とは父親・母親・娘・息子・商人等の特定の人々に共通する性格や考え方と云うもので、現在でも学生気質などというように用いられている。気質物はそうした種々の気質を誇張し、滑稽化して描き出そうとしたもので当時大流行したが、中には西鶴の亜流に終始したのも見出される。

AB145 日本文学(近世)BI

浮世草子に代わって登場した散文は読本と呼ばれている。前期読本は、都賀庭鐘・建部綾足・上田秋成らによって著された中篇作品で、伝奇的・怪異的要素が濃厚である。後期読本を代表する作者は滝沢馬琴である。『南総里見八犬伝』に代表される馬琴の読本は、長篇が多い。伝奇的な要素に加え勸善懲惡を骨子とする長大な構想に貫かれ、その一方で人間のどろどろした情念の凄まじさも描き出している。このような前・後期読本の質的な違いについて考察する。

AB146 日本文学(近世)BII

洒落本について考察する。江戸時代中期の遊里を舞台に通(つう)という理念が発生した。これは前の時代の粋(スイ)が持っていた知的な面を強調したもので、粋(スイ)の美意識的側面は粋(イキ)へと発展して行った。洒落本というジャンルは元々は中国の小説のパロディとして成立したが、やがて遊里における

遊興を通の見地から軽妙に描くものへと変化し、定着した。通と半可通、それにうぶな息子株が登場し一夜遊里に遊ぶさまを会話を中心とする細かい描写によって写實的に描いた作品は、大流行した。

AB147 日本文学(近世)CI

洒落本に代わって登場した為永春水に代表される人情本の世界の条理について考察する。人情本というジャンルは、通よりも粋(イキ)や仇(あだ)といった美意識によって支えられている。近世社会では本来許されないはずの恋愛感情を人情として許容しようとする人情本の世界は、遊里を軸にしながら深川などの岡場所や裏長屋へと微妙に展開している。一人の美男子に町娘や芸者達が献身的に尽くすという人情本の世界の基本構成は、報われない愛に身を捧げる女達の姿を悲しく描き、読者の共感を誘っている。

AB148 日本文学(近世)CII

江戸時代末期に流行したジャンルに滑稽本がある。悪戯や馬鹿げたことを殊更に行って笑いを取る『八笑人』は古典落語の世界に継承されている。弥次喜多で有名な『道中膝栗毛』は東海道を始めとして四国の金毘羅、安芸の宮島に参詣し、中仙道や善光寺参りなど長大な構成となったが、これは読者の要望によって延々と書き継がれた結果であるという。江戸時代末期やがて幕末の動乱期を迎えようとする頽廢の時代、人々はそうした状況から逃れようとするかのように笑いを求めていたのである。そのような社会背景と笑いの問題について考察する。

AB149 日本文学(近現代)AI

昭和初期から1960年代までの日本近現代文学作品を時代順に取り上げ、共同体の解体と再生という視点から分析・解釈してゆく。考察に際しては、日本社会の近代化とそれが内包する近代の解体という二重構造に着目し、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造、ジェンダー規制などの変化、新聞・雑誌・テレビなどのメディアの働きなどにも目を向け、文学との相互関係を探る。最終的には該当期の文学テキストが、現実の枠組みを越える世界観・人間観を提供し、なおかつそれをフィクションの力によって有効性のあるものとして実現し得ているかを問う。

AB150 日本文学(近現代)AII

1970年代から現在までの日本近現代文学作品を時代順に取り上げ、共同体の解体と再生という視点から分析・解釈してゆく。考察に際しては、高度経済成長を遂げ高度情報社会へと移行行く日本社会の変化と再編成への動きに着目し、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造、ジェンダー規制などの変化、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの働きなどにも目を向け、文学との相互関係を探る。最終的には該当期の文学テキストが、現実の枠組みを越える世界観・人間観を提供し、なおかつそれをフィクションの力によって有効性のあるものとして実現し得ているかを問う。

AB151 日本文学(近現代)BI

昭和初期から1970年代までの日本近現代文学作品を時代順に取り上げ、「自己」とは何か、文学テキストはそれをどのようなものとして表現してきたかを、主として隣接領域の学問である臨床諸学(臨床心理学・

臨床哲学・臨床社会学・身体論など)の知を援用しつつ、分析・解釈してゆく。考察に際しては、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造、ジェンダー規制などの変化、新聞・雑誌・テレビなどのメディアの働きなど、「自己」を取り巻く現実的諸条件にも目を向けるとともに、臨床的アプローチによって通常は意識しにくい心の深層領域にも分け入り、総体としての「自己」の解明を図る。

AB152 日本文学(近現代) BII

1980年代から現在までの日本近現代文学作品を時代順に取り上げ、「自己」とは何か、文学テキストはそれをどのようなものとして表現してきたかを、主として隣接領域の学問である臨床諸学(臨床心理学・臨床哲学・臨床社会学・身体論など)の知を援用しつつ、分析・解釈してゆく。考察に際しては、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造、ジェンダー規制などの変化、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの働きなど、「自己」を取り巻く現実的諸条件にも目を向けるとともに、臨床的アプローチによって通常は意識しにくい心の深層領域にも分け入り、総体としての「自己」の解明を図る。

AB153 日本文学(近現代) CI

昭和初期から1970年代までの日本近現代文学作品を時代順に取り上げ、女性学・ジェンダー的視点からの読み直しを図る。考察に際しては、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造などの変化、新聞・雑誌・テレビなどのメディアの働きにも目を向け、文学との相互関係を探る。最終的には、該当期の文学テキストが、近代的な枠組みにどのように縛られ、あるいは反対にそこからどのように逃れ出て、リアリティのあるものとして新たな世界観・人間観を構築し得ていたかを考える。

AB154 日本文学(近現代) CII

1980年代から現在までの日本近現代文学、主として女性作家の作品を時代順に取り上げ、女性学・ジェンダー的視点からの読み直しを図る。考察に際しては、作品の背後に広がる社会的歴史的事象、法制度や経済構造などの変化、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの働きにも目を向け、文学との相互関係を探る。最終的には、該当期の文学テキストが、近代的な枠組みにどのように縛られ、あるいは反対にそこからどのように逃れ出て、リアリティのあるものとして新たな世界観・人間観を構築し得ていたかを考える。

AB155 日本文化学 AI

日本文化の特質を、主として近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に明治開国から関東大震災までの日本近現代文学発展の経過に反映された日本社会の近代化、西欧化の諸相を検討する。明治20年代文学においてキリスト教的世界観の影響により近代的恋愛観、超越世界理念が成立する過程、明治40年代文学にあらわれた世紀末文化、白樺派と大正リベラリズムなどの問題を論じる。

AB156 日本文化学 AII

日本文化の特質を、主に近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に関東大震災後から現代にいたる日本現代文学に残存する伝統日本文化のありようを検討することを中心とする。昭和初期モダニズム短詩運動と俳句的

発想、昭和前期谷崎潤一郎と川端康成における伝統回帰、晩年の高村光太郎と老荘思想、ポストモダン文学と土着的世界観などの問題を論じる。

AB157 日本文化学BⅠ

日本文化の特質を、主に近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に明治から関東大震災までの日本近代文学と美術や音楽や映画など諸芸術との相互作用を論じていく。明治初期賛美歌と近代詩の成立、正岡子規における俳句と写生文、雑誌「明星」におけるラファエロ前派文学と美術の影響、明治40年代江戸趣味文学と浮世絵、大正期谷崎潤一郎と映画などの問題をとりあげる。

AB158 日本文化学BⅡ

日本文化の特質を、主に近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に関東大震災後から現代にいたる日本現代文学発展の経過に反映された日本社会の近代化、西欧化の諸相を検討することを中心とする。昭和初期モダニズム文学と1920年代西欧前衛文化、第一次戦後派とフランス実存主義、現代日本文学へのアメリカ文化の影響などの問題をとりあげる。

AB159 日本文化学CⅠ

日本文化の特質を、主に近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に明治開国から関東大震災までの日本近代文学に残存する伝統日本文化のありようを検討する。明治開化期から硯友社文学にみられる江戸戯作的性格、泉鏡花文学におけるアニミズム的心性と柳田国男の民俗学との関連、明治40年代反自然主義文学に流行した江戸趣味、大正期私小説と随筆文学などの問題を論じる。

AB160 日本文化学CⅡ

日本文化の特質を、主に近現代文学にいかに関わっているか、という観点から、分析・解明しつつ、それを自分たちの問題として考えさせることを目標とする。特に関東大震災後から現代にいたる日本現代文学と美術や音楽や映画など諸芸術との相互作用を論じていく。昭和初期新感覚派文学における映画技法の影響、戦後前衛文学と同時代美術や音楽との交流、福永武彦の小説構成とクラシック音楽、ポストモダン文学とアングラ演劇などの問題をとりあげる。

AB161 中国文学AⅠ

中国近代文学の多様な側面を、おもに小説を通して考える。小説の分析を中心とするが、補足的に散文、エッセイなどを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国近代文学の作家の中から魯迅をとりあげ、魯迅の生涯を多様な作品を通して、読み解く。伝記的事実についても、多角的に検討する。

AB162 中国文学AII

中国近代文学の多様な側面を、おもに評論、エッセイを通して考える。補足的に小説、その他の散文などを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国近代文学の中から、1930年代から1940年代にかけての作家達をとりあげ、文学の変革を彼らがどのように試み、さまざまな文学理論をどう受けとめたかを考える。

AB163 中国文学BI

中国近代文学の多様な側面を、おもに小説を通して考える。小説の分析を中心とするが、補足的に散文、エッセイなどを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国近代文学の作家の中から魯迅をとりあげ、1920年代半ばから晩年までを扱う。『彷徨』『野草』『故事新編』を分析し、評論文にも触れる。

AB164 中国文学BII

中国近代文学の多様な側面を、おもに評論、エッセイを通して考えることを目標とする。補足的に小説、その他の散文などを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国近代文学から、連続しつつ大きな断絶をも含む中国現代文学について考える。ことに文化大革命の時代の前後の作家・作品を分析する。

AB165 中国文学CI

中国近代文学の多様な側面を、おもに小説を通して考えることを目標とする。小説の分析を中心とするが、補足的に散文、エッセイなどを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国近代文学の中で、1930年代から1940年代にかけての作家達をとりあげ、時代の現実に彼らがどう向きあったかを考える。

AB166 中国文学CII

中国近代文学の多様な側面を、おもに評論、エッセイを通して考える。補足的に小説、その他の散文などを交え、立体的に作家と近代中国との関連・葛藤の様相を考える。作品を各自がきちんと読んでおくことを前提とし、積極的な意見発表・問題提起を重視し、さまざまな角度から分析したい。中国現代文学の多彩な動きと可能性について考える。文化大革命以後、ポスト・モダンに及ぶ作家達の動きについて分析し、女性作家にも焦点をあてる。

AB167 言語情報処理I

プログラミング言語(Perl等)を用い、日本語(一般に言語)表現をコンピュータで扱う技能とともに、その基礎となる考え方を学んでゆく。本講義では、実際にコンピュータに向かいつつ、基礎的な技術を取得をす

ることをめざす。更には、授業時間外の実習によって、より深い理解をはかる。単にプログラミングの能力を身につけるということではなく、日本語(一般に言語)の性質を明らかにするために、コンピュータをどのように活用することが可能であることを示すことを目標とする。

AB168 言語情報処理Ⅱ

プログラミング言語(Perl等)を用い、日本語(一般に言語)表現をコンピュータで扱う技能とともに、その基礎となる考え方を学んでゆく。本講義では、実際にコンピュータに向かいつつ、その応用的な技術・考え方を取得することをめざす。更に授業時間外の実習によって、深い理解をはかる。言語表現・情報をコンピュータによって処理する方法を総合的に把握するとともに、先人が見出してきたものを習得するだけでなく、コンピュータの活用の可能性を自ら探る態度を身につけることを目標とする。

AB169 創作論Ⅰ

文学研究にとって、創作者の意識・心理を知ることが不可欠である。創作過程において、どのように構想が形成され、また書いている間にいかに変容してゆくのか。また自己の文体については、どのように自覚され、それが実際に書かれる文章に、いかに反映してゆくのか。あるいは、創作者にとって、読み手はどのように意識されるのか。先行する作品は、創作する際に、いかに意識され、また乗り越えられるのか。以上のような事柄を、小説・戯曲・批評などのジャンルにおいて、実作を試みることによって確かめる。

AB170 創作論Ⅱ

創作過程において、どのように構想が形成され、また書いている間にいかに変容してゆくのか。また自己の文体については、どのように自覚され、それが実際に書かれる文章に、いかに反映してゆくのか。あるいは、創作者にとって、読み手はどのように意識されるのか。先行する作品は、創作する際に、いかに意識され、また乗り越えられるのか。「創作論」で学習した以上のような事柄を、詩・短歌・俳句などのジャンルにおいて、実作を試みることによって確かめ、創作者の意識・心理に対する理解を深めることを目的とする。

AB171 言語文化論

言語と文化の相互関係について考察することを目的とする。いくつかの言語を例にとり、色彩表現、時間の区切り方(時制・アスペクト)、politenessの表し方、情報の提示の仕方などにおける言語間の異同に関する考察を通して、言語の恣意性に関するソシュールの言説や「言語が違えば世界の見方が異なる」とする Sapir-Whorf 仮説の吟味を行う。心理学やコミュニケーション研究との関係も視野に入れて、人間の「世界」に対する認識様態や異文化間コミュニケーションについて理解を深める。

基盤演習

AB201 日本語学演習(現代語)A

現代語を対象に、日本語学のいろいろな問題について広く考究する。自分でデータを集め、分析することが基本となる。既存のデータやツールの使用法も学んでゆく。話しことばと書きことばの対照や、同じ話

しことば(書きことば)でも種類が異なる場合に、どのような違いが現れるかなども目を配りながら分析する。本演習では、文法項目を中心課題として、複数回の報告および討論を踏まえたレポートの提出を義務づけ、口頭発表の力と文章表現の力の双方の向上をも目標とする。

AB202 日本語学演習(現代語) B

現代語を対象に、日本語学のいろいろな問題について広く考究する。自分でデータを集め分析することが基本となる。既存のデータやツールの使用法も学習する。話しことばと書きことばの対照や、同じ話しことば(書きことば)でも種類が異なる場合に、どのような違いが現れるかなども目を配りながら分析する。本演習では、語彙項目を中心課題として、複数回の報告および討論を踏まえたレポートの提出を義務づけ、口頭発表の力と文章表現の力の双方の向上をも目標とする。

AB203 日本語学演習(現代語) C

現代語を対象に、日本語学のいろいろな問題について考究する。自分でデータを集め分析することが基本となる。既存のデータやツールの使用法も学習する。話しことばと書きことばの対照や、同じ話しことば(書きことば)でも種類が異なる場合に、どのような違いが現れるかなども目を配りながら分析する。本演習では、文章・談話レベルの項目を中心課題として、複数回の報告および討論を踏まえたレポートの提出を義務づけ、口頭発表の力と文章表現の力の双方の向上を図る。

AB204 日本語学演習(日本語史) A

日本語史の史料となる文献を扱う方法を学び取ることを目標とする。上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、時代別に資料となる文献に直接触れて学んでいく。それぞれの時代の日本語を体系的に記述、分析するためには、言語資料をどう扱うかという方法の訓練である。前期は文献の解読と基礎的な記述を行う。後期は分析文献中に設定したテーマをより発展・進化させるために先行研究や関連資料等を積極的に引用して、問題の史的な位置づけを行っていく。平安時代の文献を中心に扱う。

AB205 日本語学演習(日本語史) B

日本語史の史料となる文献を扱う方法を学び取ることを目標とする。上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、時代別に資料となる文献に直接触れて学んでいく。それぞれの時代の日本語を体系的に記述、分析するためには、言語資料をどう扱うかという方法の訓練である。前期は文献の解読と基礎的な記述を行う。後期は分析文献中に設定したテーマをより発展・進化させるために先行研究や関連資料等を積極的に引用して、問題の史的な位置づけを行っていく。中世の文献を中心に扱う。

AB206 日本語学演習(日本語史) C

日本語史の史料となる文献を扱う方法を学び取ることを目標とする。上代から近世に至るまでの日本語の変遷を、時代別に資料となる文献に直接触れて学んでいく。それぞれの時代の日本語を体系的に記述、分析するためには、言語資料をどう扱うかという方法の訓練である。前期は文献の解読と基礎的な記述を行う。後期は分析文献中に設定したテーマをより発展・進化させるために先行研究や関連資料等を積極的に引用して、問題の史的な位置づけを行っていく。近世の文献を中心に扱う。

AB207 日本文学演習(古典)A

日本古典文学研究の入門として『小倉百人一首』を取り上げる。秀歌選としての百首歌の歴史を整理し、何故このような歌集が成立したのかを考える。各論としては百首の歌それぞれのテーマ・歌風などを分析し、作品総体としての美意識や構想について考える。この形式は後世様々な垂流作を生んでいるが、そうした種々の百人一首流行の経緯について分析する。この作品はカルタ競技としても広く普及しているが、遊戯としての百人一首の在り方についても考察する。

AB208 日本文学演習(古典)B

日本古典文学上の和歌伝統について、資料を読みつつ学習する。中世、特に室町時代の和歌研究は必ずしも盛んであるとは云えないが、堂上貴族や武将連歌師等多くの歌人が活躍していた。極めて多岐にわたるそれら室町歌人の歌風がどのようなものであったのか整理・分析する。新日本文学大系47『中世和歌集 室町篇』に収められた「兼好法師集」その他の歌集・「永享五年正徹詠草」などの詠草や百首歌等を軸に勅撰集に見られる和歌とは異質な面を有する歌達について考察する。

AB209 日本文学演習(古典)C

日本の古典和歌史上で注目されるのは細川幽斎である。以下後水尾院を中心とする宮廷歌人や水戸黄門と水戸光圀などの大名や幕臣の他に女流歌人や江戸派と呼ばれる歌人達が存在する。小沢廬庵・上田秋成・本居宣長等もそれぞれ独特な歌風を形成している。近世末期では桂園派の人々を中心に幕末の女流歌人や志士の歌と並んで良寛の存在も見逃せない。このように多様な魅力を持つ和歌の流れについて時代を追って分析し、そうあらしめた社会背景について考察する。

AB210 日本文学演習(上代)A

古代の和歌、特に万葉集の歌について、一首一首を精読しつつ、その歌の世界を、可能な限り深く探求することを目標とする。本文批判に始まり、語法や語彙について検討し、また歴史的な背景を考察して歌人のおかれた状況を知ることによって、総合的にその歌の持つ意味や価値について考えてゆく。かつ注釈書や研究書を読解し、索引によって用例を調査する方法についても、実際に触れることによって学ぶ。特に(初期万葉)と呼ばれる時代、壬申の乱以前の、額田王らによる草創期の和歌を中心とする。

AB211 日本文学演習(上代)B

古代の和歌、特に万葉集の歌について、一首一首を精読しつつ、その歌の世界を、可能な限り深く探求することを目標とする。本文批判に始まり、語法や語彙について検討し、また歴史的な背景を考察して歌人のおかれた状況を知ることによって、総合的にその歌の持つ意味や価値について考えてゆく。かつ注釈書や研究書を読解し、索引によって用例を調査する方法についても、実際に触れることによって学ぶ。特に万葉第2期と呼ばれる時代、平城京遷都以前の、柿本人麻呂によって完成された和歌世界を中心にする。

AB212 日本文学演習(上代)C

古代の和歌、特に万葉集の歌について、一首一首を精読しつつ、その歌の世界を、可能な限り深く探求することを目標とする。本文批判に始まり、語法や語彙について検討し、また歴史的な背景を考察して歌人のおかれた状況を知ることによって、総合的にその歌の持つ意味や価値について考えてゆく。かつ注釈書や研究書を読解し、索引によって用例を調査する方法についても、実際に触れることによって学ぶ。特に奈良時代、山上憶良・大伴旅人・山部赤人らによって多様化し、大伴家持に終わる万葉後期を中心とする。

AB213 日本文学演習(中古)A

平安中期の物語文学を精読し、あわせて平安時代についての理解を深めさせる。作品を読む上で欠かせない文語文法、重要古語、時代背景に注意しつつ、作品の構造に関しても学ぶことが出来るよう配慮する。必要に応じて、資料の検索方法や活用方法の解説、学术论文の読解を行う。上記の目標達成のため、各学生が担当部分の問題点・疑問点を整理して発表し、それをもとに討論を重ねる。また、これらを踏まえたレポートの提出を課すことで、文章表現力の向上を図る。

AB214 日本文学演習(中古)B

平安前期の物語文学を精読し、あわせて平安時代についての理解を深めさせる。作品を読む上で欠かせない文語文法、重要古語、時代背景に注意しつつ、作品の構造に関しても学ぶことが出来るよう配慮する。必要に応じて、資料の検索方法や活用方法の解説、学术论文の読解を行う。上記の目標達成のため、各学生が担当部分の問題点・疑問点を整理して発表し、それをもとに討論を重ねる。また、これらを踏まえたレポートの提出を課すことで、文章表現力の向上を図る。

AB215 日本文学演習(中古)C

平安中期の日記文学を精読し、あわせて平安時代についての理解を深めさせる。作品を読む上で欠かせない文語文法、重要古語、時代背景に注意しつつ、作品の構造に関しても学ぶことが出来るよう配慮する。必要に応じて、資料の検索方法や活用方法の解説、学术论文の読解を行う。上記の目標達成のため、各学生が担当部分の問題点・疑問点を整理して発表し、それをもとに討論を重ねる。また、これらを踏まえたレポートの提出を課すことで、文章表現力の向上を図る。

AB216 日本文学演習(中世)A

日本中世文学を読み解く方法を演習する。語り物研究の材料として『保元物語』を取り上げる。この物語は1156年に発生した保元の乱を物語化したものである。諸本による異同を整理し、源為朝・平清盛などの武将や戦いに敗れた崇徳院などの人物像を検証する。また『愚管抄』などの周辺史料を参照しながら物語における虚構化や構想上の問題点を明らかにして行く。軍記物語の中核としての白河殿の決戦の有様や為朝の武勇談ばかりでなく崇徳上皇の末路や怨霊としての在り方など、後世に大きな影響を与えた事柄について考える。

AB217 日本文学演習(中世)B

日本中世文学を読み解く方法を演習する。語り物研究の材料として『平家物語』を取り上げる。平家一門の盛衰を描くこの作品は語り物として独特のリズムを持った文体で記されている。和漢混淆文と総称される文章の美しさがどのようにして成立したのかを検証しながら、源氏方・平家方の武将の造形や戦いの渦中で運命に翻弄される女性達の姿にも着目したい。『吾妻鏡』などの歴史書を参考にしながら、平安末から鎌倉時代への激動期に見られる人間ドラマについて分析する。

AB218 日本文学演習(中世)C

日本中世文学を読み解く方法を演習する。語り物研究の材料として『太平記』を取り上げる。『平家物語』が琵琶法師の語る平曲によって広まって行ったのに対し、この作品は後に講談の元となる太平記読みによって庶民の間に普及した。楠正成を中心とする第一部、新田と足利の争いを描く第二部、幕府の中枢における権力抗争を記した第三部それぞれのテーマに即して、当初歴史書として取り扱われたこの作品の文学的なテーマについて考える。『平家物語』と並んで後世の軍記物に多大な影響を及ぼしたこの作品の意義について明らかにする。

AB219 日本文学演習(近世)A

日本近世文学研究の演習(元禄文学研究1)。元禄六年に52才で没した西鶴は俳諧師として出発した。当初談林派の俳諧師として勇名を馳せていた西鶴は『好色一代男』で浮世草子と呼ばれるジャンルを確立し『好色五人女』『好色一代女』などの好色物、『武道伝来記』などの武家物、『西鶴諸国はなし』などの雑話物や『日本永代蔵』『世間胸算用』などの町人物と分類される多くの散文作品を残している。従来町人作家として評価されて来た西鶴は武家社会の事情にも深く通じている。そのような多彩な西鶴の散文世界について考察する。

AB220 日本文学演習(近世)B

日本近世文学研究の演習(元禄文学研究2)。元禄七年に51才で大阪で客死した芭蕉は俳諧師として生涯を全うした。貞門派の俳諧に親しんでいた芭蕉は江戸出府後、深川の芭蕉庵に隠棲、旅から旅の生活を送ることで、滑稽を旨としていた俳諧に蕉風と呼ばれる新風を樹立した。現在俳句として鑑賞される作品のみならず歌仙という連句形式を完成の域に導いた芭蕉は、『奥の細道』に代表される数々の紀行文を残しており、俳文と呼ばれるジャンルを完成させた。俳聖と仰がれ江戸時代のみならず現在に至る迄多大な影響力を持つ芭蕉の雅と俗について考察する。

AB221 日本文学演習(近世)C

日本近世文学研究の演習(元禄文学研究3)。享保九年に72才で没した近松門左衛門は、武家の出身であったが芝居者の世界に身を投じ多くの作品を残している。『世継曾我』『出世景清』『国性爺合戦』などの時代物浄瑠璃に加えて名優坂田藤十郎のために他家騒動物の枠組にやつし事・傾城事などを組み込んだ歌舞伎作品も残している。また虚実皮膜論とされる芸論も有名である。芝居事で朽ち果てる覚悟を決めて台本に署名した近松の創作の秘密について考察する。

AB222 日本文学演習(近代)A

明治を代表する幻想作家泉鏡花の主要作品を時代順に取り上げ、学生各人が、江戸期の諸芸術からの影響関係などを探ると同時に、作品の分析解釈を行い、鏡花独自の幻想のメカニズムを明らかにしてゆく。分析にあたっては、必要な近代文学研究の基本的な方法(資料収集法、研究史の構築と批評的受容、作品の要素分析法、語り論など)を実践的に身につけてゆく。こうしたプロセスを経て、最終的には鏡花作品の総体としての文学的特質や文学史上の意義などを解明する。

AB223 日本文学演習(近代)B

日本の近代文学について、作品を精読することによって、その特質を考察することを目標とする。特に明治から現代までの代表的な幻想文学を時代順に取り上げ、学生各人が一つ一つ具体的にそれらを分析考察することで、近代文学研究の基本的な方法(資料収集法、研究史の構築と批評的受容、作品の要素分析法、語り論など)を実践的に身につけてゆく。また、作品の解釈と考察を重ねることで日本近代文学史における幻想のメカニズムとその系譜を明らかにしてゆく。

AB224 日本文学演習(近代)C

明治を代表する近代女性作家樋口一葉の主要作品を時代順に取り上げ、学生各人が、作品の背後に広がる時代的制約や文学状況の特性、ジェンダーバイアスなどを明らかにしつつ、一つ一つ分析解釈してゆく。分析にあたっては、必要な近代文学研究の基本的な方法(資料収集法、研究史の構築と批評的受容、作品の要素分析法、語り論など)を実践的に身につけてゆく。こうしたプロセスを経て、最終的には一葉作品の総体としての文学的特質や文学史上の意義などを解明する。

AB225 日本文学演習(現代)A

昭和初期から2000年代現在までの日本近現代文学とサブカルチャー(マンガ・アニメーション・芝居・テレビ・映画など)作品を時代順に取り上げ、主として身体論の視点からの読み直しを図る。また、文学研究とサブカルチャー研究の方法上の共通点と相違点を、自らの分析と考察・発表を通して具体的かつ実践的に身につけてゆく。最終的な目標は、言葉が分けている世界のありようとは異なる身体的世界の分かれ方やつながり方を明らかにし、言語優位の近代的人間観・世界観の相対化を行うことである。

AB226 日本文学演習(現代)B

昭和初期から2000年代現在までの日本近現代文学とサブカルチャー(マンガ・アニメーション・芝居・テレビ・映画など)作品を時代順に取り上げ、臨床心理学や精神病理学の知を援用しながら分析してゆく。このアプローチによる研究の目指すものは、「自己」というものを、意識されている領域だけではなく無意識領域も含む総体として捉えなおすことである。また、文学研究とサブカルチャー研究の方法上の共通点と相違点を、自らの分析と考察・発表を通して具体的かつ実践的に身につけてゆく。

AB227 日本文学演習(現代)C

昭和初期から2000年代現在までの日本近現代文学とサブカルチャー(マンガ・アニメーション・芝居・テレビ・映画など)作品を時代順に取り上げ、主として女性学・ジェンダーの視点からの読み直しを図る。また、

文学研究とサブカルチャー研究の方法上の共通点と相違点を、自らの分析と考察・発表を通して具体的かつ実践的に身につけてゆく。最終的な目標は、これらのテキストが提示している、近代の枠組みを越えてゆくこととするような人間観や世界観を探り、かつその有効性を問うことである。

AB228 日本文化学演習A

日本近代文学の発展と同時代新聞、雑誌などのメディアとの関係を議論する。明治初期における自由民権運動と政治小説、『金色夜叉』と『不如帰』、夏目漱石と朝日新聞、大正リベラリズムと岩波出版文化、昭和初期通俗小説と大衆雑誌、無頼派文学と戦後ジャーナリズム、社会派推理小説と高度成長期メディアなどのトピックスをとりあげて、文学作品の成立がメディアを媒介として同時代社会状況とどのように対応していたか検証する。

AB229 日本文化学演習B

日本の文化を、主として近現代文学を読むことで解明する。明治から現代にいたる日本人の外国(主として西欧)体験を順にたどりながらその文明史的意義について議論する。明治開国前後の和魂洋才的な西欧文化摂取の姿勢から始まって、鷗外、漱石、荷風らのダブルバインド的西欧体験、横光利一の国粹主義転換への機縁となった欧州旅行、遠藤周作『深い河』にあらわれたインド体験などを検討して、近代日本人が異文化から何をうけとったか考える。

AB230 日本文化学演習C

近代日本の文化を、「日本文化論」の系譜から読み解くことを目標とする。具体的には明治から現代にいたる内外の日本文化論を対照させながら議論する。明治初期におけるロチとハーンの対照的な日本観、新渡戸稲造と岡倉天心が欧米に発信した武士道と茶道、西田幾多郎、和辻哲郎、九鬼周造らの日本文化哲学、ベネディクト『菊と刀』における西欧罪の文化と日本恥の文化などを考察することによって日本文化の多様性を再検討する。

AB231 中国文学演習(古典)A

中国古代文学の代表として『詩経』をとりあげ、精読する。『詩経』の独特な発想法や修辞について、作品に即して分析し、日本の古代文学、ことに記紀歌謡と対比して考える。同時に時代背景についての理解を深め、中国独自の文化・社会構造をも理解できるようにする。作品を読む上で必要不可欠な語法・語彙について学び、資料の検索方法の知識を身につけ、先行論文を分析する力を養う。更に、各自にレポート・小論文の課題を課し、実際に自己の研究を文章化できるよう指導する。

AB232 中国文学演習(古典)B

中国中世文学の代表として『文選』をとりあげ、精読する。『文選』の多彩なジャンルについて理解し、作品読解力を養い、あわせて日本の奈良・平安時代への影響について考える。同時に時代背景についての理解を深め、中国独自の文化・社会構造をも理解できるようにする。作品を読む上で必要不可欠な語法・語彙について学び、資料の検索方法の知識を身につけ、先行論文を分析する力を養う。更に、各自にレポート・小論文の課題を課し、実際に自己の研究を文章化できるよう指導する。

AB233 中国文学演習(古典)C

中国近世文学の中から宋代の「詞」をとりあげ、精読する。宋「詞」の独自の美意識について考え、後世の『三国志演義』等にまで及ぶ影響を調べ、また日本近世文学との関連も検討する。同時に時代背景についての理解を深め、中国独自の文化・社会構造をも理解できるようにする。作品を読む上で必要不可欠な語法・語彙について学び、資料の検索方法の知識を身につけ、先行論文を分析する力を養う。更に、各自にレポート・小論文の課題を課し、実際に自己の研究を文章化できるよう指導する。

AB234 中国文学演習(近現代)A

中国の近現代文学について、西欧からの刺激、辛亥革命、内戦、日中戦争、中華人民共和国の成立、文化大革命、改革開放政策など、多くの問題との関係の中で考察する。中国の作家が現実といかに向きあい、何を描いたかを、中国文読解の力の向上に留意しながら、作品に即して検討し、中国の人々の意識と生活についても考える。各自の読解と討論をもとに問題を深める。ことに辛亥革命とその後の文学の動向について考え、魯迅を中心として検討する。

AB235 中国文学演習(近現代)B

中国の近現代文学について、西欧からの刺激、辛亥革命、内戦、日中戦争、中華人民共和国の成立、文化大革命、改革開放政策など、多くの問題との関係の中で考察する。中国の作家が現実といかに向きあい、何を描いたかを、中国文読解の力の向上に留意しながら、作品に即して検討し、中国の人々の意識と生活についても考える。各自の読解と討論をもとに問題を深める。ことに日中十五年戦争の時期、中国の人々は日本との戦争にどう臨み、中国の作家が戦争の現実といかに向きあったかを検討する。

AB236 中国文学演習(近現代)C

中国の近現代文学について、西欧からの刺激、辛亥革命、内戦、日中戦争、中華人民共和国の成立、文化大革命、改革開放政策など、多くの問題との関係の中で考察する。中国の作家が現実といかに向きあい、何を描いたかを、中国文読解の力の向上に留意しながら、作品に即して検討し、中国の人々の意識と生活についても考える。各自の読解と討論をもとに問題を深める。ことに社会主義中国の成立以後、現在に至るまでの文学について精読し、激しい社会変動の中で人々が現実とどう向きあったかを検討する。

発展演習

AB301 3年次演習(現代日本語)

現代語を中心に、音声・音韻、文字・表記、語彙、文法、意味、運用各分野にわたって、研究法を講ずる。テーマの見つけ方、データ・文献の収集方法、論の組み立て方等、卒業論文執筆に向けて重要かつ基礎的な事柄について指導を行う。前期は教員の説明の形式を取りつつ、実際に文献を収集したり、文献の内容を要約したりする作業を課す。後期は、演習形式で、学生の発表を中心に、学生同士の意見交換も積極的に促しながら、卒業論文へ向けた具体的な指導を行う。

AB302 3年次演習(日本語史)

日本語史研究分野において、卒業論文の作成に向けて基礎力を身につけさせるための演習である。前期は、日本語史研究における諸先学の論文を各自が選び、そこでの論述方法、資料分析の方法等を検討しながら研究法を学んでいく。更に、本学の諸先輩の卒業研究を参照して、各自の研究テーマの設定を行って行く。後期は、各自が設定したテーマに従って研究発表を行う。発表者の分析する文献、分析の視点や方法等を受講生全員が参加して検討討議する。

AB303 3年次演習(日本古代文学)

日本古代文学研究の分野において、卒業論文の作成に向けて基礎力を養成することを目標とする。日本古代(奈良時代～平安時代)の文学、及びその時代の文学の影響を強く受けた「中世女流日記」「中世王朝物語(擬古物語)」「和歌文学」を卒論の対象とする人のための演習である。受講者の関心に合わせつつ、古文読解の基礎的なスキルを再確認するほか、古代文学の読解・考究のために必要な基礎的な知識、文献調査法、発想、術語、研究史等を、演習形式で大まかなジャンル別に確認していく。

AB304 3年次演習(日本中近世文学)

日本の中世・近世の文学・芸能を卒業論文の対象とする人のために、基礎力を養成する演習である。受講者各人の関心のあるテーマについて、研究史を探る方法や文献調査の具体的方法を指導する。鎌倉時代・南北朝時代・室町時代それに江戸時代には、それぞれ独自の社会的背景があり、仏教・儒教など時代により異なる時代思潮が見出され、そうしたものへの目配りなしには文学・芸能を論じることは出来ない。よって、以上のような事柄について総合的に学習する。

AB305 3年次演習(日本近現代文学) A

日本近現代文学を対象として卒業論文の作成に向けて基礎力を養成することを目標とする。主として文化論的な視野に立った研究方法の習得をめざすが、前期には、日本文化学概論や演習でとりあげたようなトピックスにかかわる種々の論文を読んで、それらの方法論的特質を議論、検討する。後期には、これをふまえて、卒論のテーマ選択、材料選択、先行研究の総括と自身の方法論策定、論の構成などについてのシミュレーション作業をグループにわかれておこない、相互に批評、議論することによって、最終的に卒論制作の青写真を描くところまでこぎつける。

AB306 3年次演習(日本近現代文学) B

日本近現代文学を対象とし卒業論文の作成に向けて基礎力を養成することを目標とする。前期は、研究に先立って参考文献収集の方法、図書館の利用法を紹介し、ついで近代の短編小説を題材にして、作品を構成する諸要素(時間・空間・人間関係・イメージ・プロット・テーマ・表現など)の分析方法を実践的に身につけてゆく。後期は、その発展として女性学・ジェンダー論的視点から書かれた論文や臨床の知を生かした学際研究の成果などを具体的に読み解き、卒論執筆に際して自分が依拠すべき方法選択の手がかりをつかんでゆく。

AB307 3年次演習(中国文学)

中国文学を対象として卒業論文を書くための基礎を作ることを目的とする。前半においては、古典と近代文学のそれぞれを対象として代表的な文献をとりあげ、大型の辞典・索引・関連資料の調べ方を実際に即して学ぶ。後半においては、各自の問題意識に従って、卒業論文のテーマ選択、先行研究の調査、方法論の検討等を行い、順次発表を行って全員で討論する。平行して、原文読解の基礎力を養うため、数種類の原典を論読し、それぞれの作品の特徴を分析する。

特殊演習

AB401 4年次特殊演習(日本文学)

3年次演習における各分野の研究法の習得をうけて、本格的な卒業論文制作を進めていくことを目標とする。前期では、春休みまでに暫定的に決めたテーマとその見通しを順に発表し、討論することで、自分のめざす論の位置づけをおこなう。ついで指導教員と相談した上で、最終的にテーマを確定し、資料を再検討する。夏休み中に、論の構成を具体的に固め、論理的な整合性を確かめるために、熟考するよう指導する。それを踏まえて、後期には、文章表現に対しても注意をしつつ、論文の執筆、完成を目標とする。主体的な問題意識をもったうえで、明確な作業行程にしたがい、目標にむかって着々と進むよう指導する。

英語文学文化専攻

基盤講義

AC001 英語学基礎論(ことばと社会)

言語としての英語について、特に社会との関連に焦点をあてて考察する。言語は人間にとってもっとも身近な存在であり、そこには私たちの住む社会のあり方が直接・間接に反映している。したがって異なる社会には異なる言葉づかいが発達してきた。それと同時に、言語に関しては多くの偏見や「神話」も生まれている。この講義では、社会によって異なる言葉づかいや、言語にまつわる偏見の実態を、英語圏と日本を比較対照も加えながら概観する。

AC002 英語学基礎論(ことばのしくみ)

言語としての英語について、その構造に焦点をあてて考察する。例えば、日本語などとの比較に基づいて、英語という言語の構造的な特質について理解することを目的とする。音の種類や音節構造などの音声的な特徴、動詞の活用や助動詞の体系、文型など文法(統語)上の特色、単語の形成の仕方(語形成、形態構造)、文構造や語順とメッセージの表し方の関係、文法構造の歴史的变化などのさまざまな構造的な特色について概観したあと、同じ年度の関連開講科目とのバランスに基づき、このような多面的な特色の中から、いずれかのトピックについて掘り下げて学ぶ。

AC003 英語文学・文化基礎論A1

イギリスおよびイギリスと関係の深い文化圏を中心に英語による文学と文化に焦点を当てて概観する。文学作品や映像などを通して、具体的な文化事象を取り上げ、背景をなす歴史や思想を言及しつつ把握した上で、言語を媒介とした表象の読み解き方、論じ方の基礎を学んでいく。その上で、英語による文学や文化を分析するための読解力の向上を図り、英語という言葉に対する感受性を養うことを目指す。

AC004 英語文学・文化基礎論AII

「英語文学・文化基礎論A」で学んだことをふまえ、イギリスおよびイギリスと関係の深い文化圏を中心に英語による文学と文化に焦点を当てて概観する。文学作品や映像などを通して、具体的な文化事象を取り上げ、背景をなす歴史や思想を言及しつつ把握した上で、言語を媒介とした表象の読み解き方、論じ方を批評理論の基礎を含め、学んでいく。その上で、英語による文学や文化を分析するための読解力の向上を図り、英語という言葉に対する感受性を養うことを目指す。

AC005 英語文学・文化基礎論B1

アメリカおよびアメリカと関係の深い文化圏の文学と文化に焦点を当てて概観する。文学作品や映像などを通して、具体的な文化事象を取り上げ、背景をなす歴史や思想を言及しつつ把握した上で、言語を媒介とした表象の読み解き方、論じ方の基礎を学んでいく。その上で、英語による文学や文化を分析するための読解力の向上を図り、英語という言葉の特性に対する感受性を養うことを目指す。

AC006 英語文学・文化基礎論BII

「英語文学・文化基礎論B」で学んだことをふまえ、アメリカおよびアメリカと関係の深い文化圏の英語による文学と文化に焦点を当てて概観する。文学作品や映像などを通して、具体的な文化事象を取り上げ、背景をなす歴史や思想を言及しつつ把握した上で、言語を媒介とした表象の読み解き方、論じ方を批評理論の基礎を含め、学んでいく。その上で、英語による文学や文化を分析するための読解力の向上を図り、英語という言葉に対する感受性を養うことを目指す。

特殊講義

AC101 言語学Ⅰ

私たちが無意識のうちにもっている言葉に対する偏見や固定観念を明らかにしながら、言語はどのような機能をもっているか、今日の言語学者はそれをどのような方法で研究しているかを考察し、言語を科学的に観察し研究する方法を身につけることを目的とする。とりわけ、言語理論の中核をなす、音韻組織および文の構造と意味の研究に焦点を合わせ、英語だけでなく、私たちの母語である日本語、および世界中のさまざまな言語からのデータを交えて、具体的に説明していく。

AC102 言語学Ⅱ

「言語学Ⅰ」と同様、言語を科学的に観察し研究する方法を身につけることを目的とするが、ここでは理論言語学の外縁をなす諸分野を扱う。すなわち、言葉の使われる場面がその意味の決定にどう関わるか(語用論)、社会構造は言語にどんな影響を与えるか(社会言語学)、幼児は母語をどのようなプロセスを経て習得するか、第二言語(外国語)の学習はどのように行われるか(言語習得論)、言語変化はどのようにして起こり、またどのような形で伝播していくか(言語変化論)等の問題を考察する。

AC103 英語史Ⅰ

英語の言語としての発達を文学・文化の視野をも加えて概観し、その特徴を考察することを目的とする。英語は西暦450年頃に、アングロ・サクソン人が英国に持ち込んだことから始まる古英語期から、英詩の父と呼ばれる Chaucer、15Cの Caxton による印刷術導入などに至る中英語期を扱う。北欧語を話す Viking、Alfred 大王の治世、フランス語を話すノルマン人の征服、14世紀の英語の復権など、社会・文化的背景の影響を勘案しつつ、英語の言語としての特質が大きく変化したプロセスについての知識を習得し、英語の特徴について理解を深める。

AC104 英語史Ⅱ

「英語史概説Ⅰ」に続いて、英語の言語としての発達を文学・文化の視野をも加えて概観することを目的とする。印刷術導入以後の初期近代英語から英語が国際語としての地位を確立する現代英語までを扱う。読み書き能力(Literacy)の向上、綴りと発音のギャップを生み出した大母音推移、Renaissance 期を代表する Shakespeare、1611年の欽定訳聖書の出版、1620年の Pilgrim fathers に始まるアメリカ英語の発達

などの社会・文化的背景の影響を勘案しつつ、現代英語に至るプロセスについての知識を習得し、さらに、世界の共通語となった英語の多様性の原点を考察して、英語の言語としての本質的特長を探る。

AC105 英文学史Ⅰ

中世から1930年代のイギリス文学を、詩、演劇、小説(散文)の分野に分けて概観する授業である。この授業では、中世からルネサンス期までの詩と演劇、17世紀の詩と演劇、18世紀の詩、演劇、ロマン派の詩を扱う。それぞれの時代背景を把握し、文学との関係において社会の重要な出来事や思潮について考察した後、個々の詩人、劇作家、小説家などの文学史における役割を検討し、各時代の文学的トピックを概説しつつ、具体的に重要な文学作品の読解、鑑賞も行う。

AC106 英文学史Ⅱ

中世から1930年代のイギリス文学を、詩、演劇、小説(散文)の分野に分けて概観する授業である。この授業では、17世紀末から18世紀初頭にかけての散文(小説を除く)、ジャーナリズム、18世紀の小説の誕生とその発展、19世紀の小説と散文、19世紀後半の詩と演劇、20世紀前半の小説と演劇を扱う。それぞれの時代背景や社会の重要な出来事、思潮について考察した後、個々の詩人、劇作家、小説家などの文学史における役割を検討し、各時代の文学的トピックを概説しつつ、具体的に重要な文学作品の読解、鑑賞も行う。

AC107 米文学史Ⅰ

17世紀から南北戦争の終わる1865年あたりまでに書かれた、アメリカ文学の歴史的展開を概観する授業である。この授業ではまず、興味深く重要なテキストをいくつか取り上げ、精読することも求められる。文学上の展開だけでなく、文学作品を検証するために必要な、歴史的、文化的な背景にも触れていく。この授業の目的は、初期アメリカ文学の主な流れをしっかりと理解することができるようになることである。

AC108 米文学史Ⅱ

南北戦争の終わる1865年頃から現在までに書かれたアメリカ文学の歴史的展開を概観する授業である。この授業ではまず、興味深く重要なテキストをいくつか取り上げ、精読することも求められる。文学上の展開だけでなく、文学作品を検証するために必要な、歴史的、文化的な背景にも触れていく。この授業の目的は、後期アメリカ文学の主な流れをしっかりと理解することができるようになることである。

AC109 英語学(英語の構造)Ⅰ

英語の構造について主に、形態論・統語論に関する様々なトピックについて、具体的資料に基づいて、体系的に分析するための基本的な考え方を修得させることを目的とする。扱うトピックは、統語論、語形論、語形成などについての基本的問題を中心に、必要に応じて文字と発音の関係等の中から適宜取り上げる。先行研究を概観し、音声、形態および統語との関連を理解させ、具体的資料に基づいて、一定の法則性を引き出す技法、資料収集の技法などを習得させる。

AC110 英語学(英語の構造)II

「英語学(英語の構造)I」で学んだことに基づいて英語の構造について、さらに理解を深めることを目的とする。「英語学(英語の構造)II」では、形態論、統語論に関する知識を基に、それを発展させ、より高度な英語の構造の理解へ導く。文(Sentence)の成立条件とその文法性を理解させると共に、パラグラフ単位での「談話分析」言語外での要素も考慮する「言語運用」についての理解を深める。同時に、それらに関する資料収集、体系的分析などの技法を習得させる。

AC111 英語学(英語の歴史)I

英語の歴史における統合的言語から分析的言語への変化のプロセスの中で、主に古英語期から中英語期に至る変化の大きい移行期の英語について、様々な観点からトピックを選び通時的に考察する。とくに、当時の社会・文化との関連も視野にいれて、英語の変化の外的要因・内的要因を理解させる。さらに、英語史研究上重要な資料となる文献を実際に読み、最近の代表的参考文献の紹介を行い、言語変化の実相を資料に即して分析するための基盤となる知識および技法を修得させる。

AC112 英語学(英語の歴史)II

英語の歴史における統合的言語から分析的言語への変化のプロセスの中で、主に中英語期から現代英語に至る英語の変化について、音韻、形態、統語論、語彙論など様々な観点からトピックを選び通時的に考察する。特に言語を取り巻く社会・文化の変化が大きい現代における英語の変化の諸相を解説し、現在の Englishes とされるような英語の多様性の要因にも言及する。最近の代表的参考文献の紹介を行い、言語変化の実相を資料に即して分析するための基礎となる知識および技法を修得させる。

AC113 英語学(英語の意味)I

英語の様々な表現に含まれる「意味」について、様々な角度から、実際の用法に沿って分析し、英語の意味構造の基本的に理解することを目的とする。意味には極めて小さい単位で示される Lexical Meaning からより高い次元の Sentence Meaning に至るまで、いくつかの段階に分かれている。この授業では、語彙の意味の示差的特徴(Distinctive Feature)による分析、辞書などによる文脈から切り離された(Context-free)意味、文脈中(Context-bound)での意味など、更に直喩・暗喩などのメタファーの問題、連語関係からの「言葉の場の理論」など様々な角度から意味の問題にアプローチし、基本的意味の分析方法を修得させる。

AC114 英語学(英語の意味)II

「英語学(英語の意味)I」で学んだ基本的な知識をもとに、語彙の同義性(Synonymy)及び反意性(Antonymy)や、曖昧性(Ambiguity)、禁句(Taboo)と婉曲用法(Euphemism)の関係や Speech Level の観点から格式的な(Formal)表現と非格式的な(Informal)表現の比較など、より複雑な意味の問題を考察し、英語の意味についての理解を更に深めることを目的とする。文学作品を含む様々な資料を題材としてとりあげ、具体例を通して実践的に意味の問題を考察する。

AC115 英語学(英語の諸相)I

言語と社会の関わりを多角的に考察して、文化的文脈を視野に入れつつ、私たちが今日直面する言語問題が何かを理解するとともに、日常生活における言語行動の意味を自覚的に捉える態度を養うことを目的とする。具体的には、言葉の使用者の出身地・職業・年齢・性別・民族的バックグラウンド等がどのような言語変異を生み出しているかの問題を、過去半世紀にわたる社会言語学者の研究成果を批判的に読み解くことによって解明する。

AC116 英語学(英語の諸相)II

言語と社会の関わりを多角的に考察して、文化的文脈を視野に入れながら、私たちが今日直面する言語問題が何かを理解するとともに、日常生活における言語行動の意味を自覚的に捉える態度を養うことを目的とする。具体的には、言語と方言、あるいは方言と標準語の区別、ピジンとクレオール、多言語社会の現状、アメリカにおける黒人英語等の問題を、過去半世紀にわたる研究成果の精査によって解明する。

AC117 英語学(意味論)

日常的に使われる英語の持つ「意味」はどのように構成されているか、具体的用例の分析を通して、英語の意味の成り立ちへの理解を深め、「意味論」への導入を行うことを目的とする。単語レベルの意味、文のレベルの意味、意味と文法の関係なども視野に入れて、意味を構成するものとその性質を明らかにする。さらに、英語表現の持つ意味の多様な分析を学生自ら行えるよう実践的指導を行う。このようにして、学生に意味の諸相から言語現象への興味を啓発し、研究の技法への理解を深める。

AC118 英語学(語用論)

実際の英語使用の場面で用いられる英語表現は、文字通りの意味とは別に、様々なコミュニケーション上の役割を担っている。英語使用の様々な場面を踏まえて、言語によるコミュニケーションのメカニズムについて理解を深め、語用論への導入を行うことを目的とする。メタファー、レトリックなどの側面からも、このテーマを論じ、日常的に使用される様々な英語の表現の意義を、それが使われる場面との関わりの中で究明する。さらに、具体的題材をとりあげ、学生自ら分析が行えるよう実践的指導を行い、研究の技法への理解を深める。

AC119 英語文学(詩)I

この講義の目的は、英語で書かれた詩作品(英米の詩のみならず、その他の国の英語で書かれた詩を含む)を通して詩的言語の面白さを知り、詩は常に驚きを伴った新鮮な認識を表現する努力の結晶であることを実感出来るようにすることである。このため英詩の多様なジャンルや形式の特徴、比喩的表現の本質、また詩の調子と語り手の関係その他について注意を喚起し英詩解読の技法に習熟させながら、具体作品を解読する。

AC120 英語文学(詩)II

「英語文学(詩)I」の講義を踏まえて具体的に詩作品を取り上げ、個別の作品の分析・解説を行って、英詩を体験することで深い理解を促す。参考文献を紹介して詳細な注解を丁寧に読む習慣をつけ、作品または詩人の文学史上の意義を説明し、作品の文化的な背景を講じ、学生が興味をもち自立して詩作品を読み解いてゆく契機となるよう指導する。また、英語を使う立場から、英語の語感に対する感性を養うこともこの講義の目的である。

AC121 英語文学(演劇)AI

舞台での上演を前提として書かれる演劇というジャンルは、小説、詩あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本講義では英語圏文学・文化についての基本的な理解を基にして、演劇というジャンルの表象がどのような特徴をもち、さまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせる。具体的には、イギリス及びイギリスと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げて英語で読み、実際の上演を考慮に入れながら、それら演劇作品の文化的・社会的意味を考察させる。

AC122 英語文学(演劇)AII

舞台での上演を前提として書かれる演劇というジャンルは、小説、詩、あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本講義では英語圏文学・文化についての基本的な理解を基にして、演劇というジャンルがどのような特徴をもち、さまざまな時代の多様な領域の英語圏文化でどのような意味をもつかを深く学ばせる。具体的には、イギリス及びイギリスと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げ、実際の上演を考慮に入れながら英語で読み、さらに英語で書かれた批評を検討することで、演劇作品の文化的・社会的意味を考察させる。

AC123 英語文学(演劇)BI

舞台での上演を前提として書かれる演劇というジャンルは、小説、詩あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本講義では英語圏文学・文化についての基本的な理解を基にして、演劇というジャンルの表象がどのような特徴をもち、さまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせる。具体的には、アメリカ及びアメリカと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げて英語で読み、実際の上演を考慮に入れながら、それら演劇作品の文化的・社会的意味を考察させる。

AC124 英語文学(演劇)BII

舞台での上演を前提として書かれる演劇というジャンルは、小説、詩、あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本講義では英語圏文学・文化についての基本的な理解を基にして、演劇というジャンルがどのような特徴をもち、さまざまな時代の多様な領域の英語圏文化でどのような意味をもつかを深く学ばせる。具体的には、アメリカ及びアメリカと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げ、実際の上演を考慮に入れながら英語で読み、さらに英語で書かれた批評を検討することで、演劇作品の文化的・社会的意味を考察させる。

AC125 英語文学(小説) AI

この授業は英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする授業である。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業を進める。特に、この授業では、イギリス及びイギリスと関係の深い英語圏文化を対象として考察する。

AC126 英語文学(小説) AII

「英語文学(小説)AI」の受講を前提とし、この授業では様々な資料の読解も含め、英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業は進められる。

AC127 英語文学(小説) BI

この授業は英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする授業である。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業を進める。特に、この授業では、アメリカ及びアメリカと関係の深い英語圏文化を対象として考察する。

AC128 英語文学(小説) BII

「英語文学(小説)BI」の受講を前提とし、この授業では様々な資料の読解も含め、英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業は進められる。

AC129 英語文学(小説) CI

この授業は英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする授業である。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業を進める。特に、この授業では、イギリスおよびイギリスと関係の深い英語圏文化を対象として考察する。

AC130 英語文学(小説) CII

「英語文学(小説)CI」の受講を前提とし、この授業では様々な資料の読解も含め、英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とす

る。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業は進められる。

AC131 英語文学(小説)DI

この授業は英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業を進める。特に、この授業では、アメリカおよびアメリカと関係の深い英語圏文化を対象として考察する。

AC132 英語文学(小説)DII

「英語文学(小説)DI」の受講を前提とし、この授業では様々な資料の読解も含め、英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めることを目標とする。個々のテキストの精読のみならず、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業は進められる。

AC133 英語文学(児童文学)I

児童文学は人間形成途上にある者にとって、人間・社会・世界に目を開かせ、自己確認と自己確立を促し、楽しませつつ深く考えさせる契機となりうる分野である。特に英語圏の作品にはリアリズムとファンタジーのさまざまなジャンルに、豊富な作品を擁している。授業では予習を必須とし、原書を通読できるよう小課題を与えて辞書を活用させ、他言語の妙味を味わいつつ、その文化の伝統と風習に触れ、文学の醍醐味を知ることを目指している。

AC134 英語文学(児童文学)II

「英語文学(児童文学)I」を踏まえて講義をおこなう。児童文学は幼年物から十代後半物まで広範囲であり、表現や形式は多種にわたっているが、比較的易しい表現の底に深い意味を込めたものが多い。その多層性を読み取るには、作家の時代背景の考察も必要となる。さらに一般小説とも共通な文学としての基本的要素(Character / Theme / Setting / Plot / Style / Tone など)も備えているので、その考察も含めて作品の深い面白みを味わいたい。

AC135 英語文学(評論)I

英語圏文学・文化についての基本的な理解を基にして、英語で書かれた主要な批評理論を修得させる。本講義では、さまざまな文化の様相を分析し、その社会的意味を探究するカルチュラル・スタディズとの関わりをも考慮に入れる。具体的には、英語圏の主要な文学・文化批評理論を取り上げて英語で読み、内容を考察した後、具体的にその理論を英語圏の文学作品や文化現象に適用させてみることで、文学・文化の表象が視点の変化によりいかに異なる意味をもち得るかを認識させる。

AC136 英語文学(評論)II

英語圏文学・文化の基本的な理解を基にして、英語で書かれた主要な批評理論を修得させる。本講義では、さまざまな文化の様相を分析し、その社会的意味を探究するカルチュラル・スタディーズとの関わりをも考慮に入れる。具体的には、英語で書かれた複数の文学・文化の批評理論を取り上げて英語で読み、それらを英語圏の文学や文化現象に実際に適応させてみる。さらに、異なった批評理論を用いることにより明らかになる文学・文化の表象の意味の相違を比較検討し、批評理論を応用するための方法論を修得させる。

AC137 英語文学・文化AI

本講義においては、英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせることを目標とする。具体的には、イギリスおよびイギリスと関係の深い英語圏文化を中心に、文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察させる。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。

AC138 英語文学・文化AII

本講義においては、英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせることを目標とする。具体的には、英語圏文化における文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察させる。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。「英語文学・文化 AI」をより発展させた内容となっている。

AC139 英語文学・文化BI

本講義においては、英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせることを目標とする。具体的には、アメリカおよびアメリカと関係の深い英語圏文化を中心に、文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察させる。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。

AC140 英語文学・文化BII

本講義においては、英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ばせることを目標とする。具体的には、英語圏文化における文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察させる。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。「英語文学・文化 BI」をより発展させた内容となっている。

AC141 英語学(英語と文化)A

ヨーロッパの西端の島国に生まれた英語は、その長い歴史の中で次第に地球的規模の広がりを見せ、今日世界語(World Language)としての地位を確立する一方、さまざまな地域に World Englishes と呼ばれる変種を生み出している。それぞれの変種は、当該地域の歴史と文化を色濃く反映し、独自の特徴を有しているが、この講義では、教科書だけでなく、演劇・映画・音楽・ニュース報道・スポーツ等、幅広いジャンルの視聴覚教材を使いながら、英語とイギリス文化の関連を見ていく。

AC142 英語学(英語と文化)B

ヨーロッパの西端の島国に生まれた英語は、その長い歴史の中で次第に地球的規模の広がりを見せ、今日さまざまな地域に World Englishes と呼ばれる変種を生み出している。それぞれの変種は、当該地域の歴史と文化を色濃く反映し、独自の特徴を有しているが、この講義では、教科書に加えて、演劇・映画・音楽・スポーツ・ニュース報道等、幅広いジャンルの視聴覚教材も使いながら、英語とかつてのイギリス植民地だった国々(アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど)の文化との関連を見ていく。

AC143 異文化理解Ⅰ

世界の多様な文化を「異文化」として認識し、その異文化を相互に理解し合い、さまざまな人びととコミュニケーションが可能となることを目標とする。すべての文化は混成文化であり、その混成度の違いに注目することが異文化理解につながるが、そのことを知るために、この授業では日本語と英語の差異を、また異なる言語を基に成立する文化を理解し、その上で、文化的、歴史的、地理的な角度から「異文化」を学んでいく。

AC144 異文化理解Ⅱ

世界の多様な文化を「異文化」として認識し、その異文化を相互に理解し合い、さまざまな人びととコミュニケーションが可能となることを目標とする。すべての文化は混成文化であり、その混成度の違いに注目することが異文化理解につながるが、そのことを知るために、この授業では日本語と英語の差異を、また異なる言語を基に成立する文化を理解し、その上で、文化的、歴史的、地理的な角度から「異文化」を学んでいく。「異文化理解Ⅰ」を発展させたものであり、相対的な視点を持てるようになることを目指す。

AC145 翻訳研究Ⅰ(翻訳と異文化理解)

広い意味での異文化交流・異言語間コミュニケーションを考え理解するうえで、「翻訳」が果たす役割に着目した講義科目。翻訳の役割を多角的に検討する手がかりとして、翻訳された作品と原作とのズレの諸相や、翻訳出版のなされ方などを具体例を通して学ぶ。たとえば、近現代の英米文学、とくに「名作児童文学」の日本における翻訳受容史と影響関係を考察するなど。合わせて、「翻訳研究」という新しい学問領域のさまざまなアプローチについても学び、「翻訳研究Ⅱ(異文化摩擦の諸相)」の基礎をつくる。

AC146 翻訳研究Ⅱ(異文化摩擦の諸相)

「翻訳研究Ⅰ(翻訳と異文化理解)」で学んだことを基に、「翻訳」を通してさらに深く異文化交流・異言語間コミュニケーションについて考えさせる。講義科目ではあるが、学生自身の問題発見に基づいた発言を促

し、インタラクティブに進める。主として、プロの翻訳者により翻訳された文と原文との比較対照をおこない、そこに見られるズレの諸相をとらえ分析する。たとえば、言葉がより複層的な意味をもって用いられる文学作品を素材として、現代日本文学の英訳や、現代英米文学の日本語訳などを、各原文と比較検討する。こうした作業を通して、言語を通して、英語文化と日本語文化の違いを体験的に考えさせる。

基盤演習

AC201 Freshman English Seminar I

英語で書く卒業論文、英語で発表する Final Presentation に向けた入門的授業の前半である。英語を書く際の基礎的単位となるパラグラフ・ライティングを第1の目標とする。トピックとメイン・アイデアからなるトピック・センテンスを出発点とし、サポートするいくつかのセンテンスを用いパラグラフを構成する方法を綿密に指導する。目的は次の二つ、すなわち、さまざまなテーマを選び、明確で焦点のはっきりしたパラグラフを書けるようになること。次いで、複数のパラグラフの繋げ方を修得することである。

AC202 Freshman English Seminar II

この授業では「Freshman English Seminar I」で学んだスキルに基づき、イントロダクション、本論、結論という構成を学ぶ。クラスで実際に何本かの短いエッセイを執筆する。目的は二つあり、さまざまなトピックについて、しっかりとした構成を持つ短いエッセイを書けるようになることと、全体的に英文執筆能力のレベルを上げることである。

AC203 英語音声学 I

英語独特の音声的特徴の基本的知識を学ぶとともに、英語の発音の仕方を身につけることを目的とする。母音の構成、子音の種類、音節の成り立ち、音のつながり(linking)、語・句・文の各レベルにおける強勢パターン、イントネーション、リズムなどについて、日本語との違いを念頭に置きながら学習する。同時に、CD教材やCALL教室のインタラクティブなトレーニングソフトなどを用いて、英語の発音の実践練習を行い、英語らしい発音の仕方を体得する。

AC204 英語音声学 II

「英語音声学 I」で学んだことを基に、英語の音声的特徴についてさらに知見を広げるとともに、発音に磨きをかけることを目的とする。英語の音体系、音節構造などに関してより詳しく学ぶとともに、各自の発音上の苦手な点やくせを克服するために、より緻密で徹底した発音訓練を行う。また、「世界語」(global language)と言われるまでになった英語には地域や社会に応じて多様な変種が存在するという事実に向け、それらの間の音声的な差異を比較したり時代変化を探ったりしながら、「正しい英語の発音とは何か」という問題を考える。

AC205 Sophomore Reading & Writing I

1年次の「Freshman English Seminar I・II」で得たスキルをふまえ、3年次「Junior Composition」に繋げるための授業の前半である。うまく書くためには良いサンプルに触れる必要がある。そのため、「Sophomore

Reading & Writing I」では英語で書かれた文学作品を理解し、論じ、それについて英語で書く力を学生が身につけることができるよう構成されている。文学作品(短編小説および詩)を理解し分析する能力を高め、理解した内容について短い学術的なエッセイを書く能力を向上させることがこの授業の目標である。

AC206 Sophomore Reading & Writing II

1年次の「Freshman English Seminar I・II」で得たスキルをさらに伸ばし、3年次「Junior Composition」に繋げるための授業の後半と位置づける授業である。「Sophomore Reading & Writing」をふまえ、文学作品以外の、文化的なテキストを題材とし、テキストを分析し、その内容について論理的な構成された短い学術的なエッセイを書く能力を向上させることがこの授業の目標である。必要に応じてリサーチをし、理解し分析する能力をさらに高めることが求められる。

AC207 英文法(知識と実践)

英語の文構造についての基本概念、英語の品詞・用法などについての基礎知識を習得し、その知識を実践の中で活用し、英語の語法への理解を深めることを目的とする。この目的のために、まず、文構造の分析、基本的品詞カテゴリーの分類を習得した上で、英語でとくに重要な語順と意味の関連、使用領域による英語の用法の多様性などを考察し、「生きた英語」の知識の一部としての英文法を体得させる。授業は、演習形式で学生の発表を中心に行う。

AC208 英語学基礎演習 I

「英語学」とはどのような問題を扱う学問であるかを理解するための手始めとして、英語という言語の姿と言語学的な研究方法についての基礎知識を得ることをねらいとする演習である。必要に応じてビデオ教材を使用しながら、「世界語」と言われるまでになった英語の現状の姿とその発展の経緯を把握するとともに、音声、語彙、文法、歴史、方言、社会との関係などのテーマごとに学ぶことを通して、英語を多面的に理解すると同時に、それぞれの分野ごとに、どのような問題や研究テーマがあるかということを探っていく。

AC209 英語学基礎演習 II

「英語学基礎演習 I」で学んだことをもとに、英語という言語の姿と「英語学」という学問の内容に対する理解を広げることを目的とする演習である。英語の発達史を辿ったり、現状の姿を紹介するビデオ教材を織り交ぜながら、「英語学基礎演習 I」の内容に対する補足的なことがらを学んだり、既習の問題や言語事象を異なる角度から検討することによって、英語という言語の特質についての総合的な知見を身につけるとともに、英語学の研究にあたっての具体的な問題意識と並んで、研究分野および研究方法に対するより鮮明なビジョンを育む。

AC210 英語文学基礎演習 I

英語で書かれた文学作品を読みといていく楽しさを知るための演習形式の授業である。その結果、言葉の持つ力を学び、文学作品を生み出す文化的背景を知り、文化を構成する要素を分析し、文学作品と作者、そして読者の関係を考えることになる。すなわち、この授業は英語圏の文学・文化の研究への誘いを目的とする。「英語文学基礎演習 I」では短い作品を中心に扱い、作品が作り出す世界を探求する。

AC211 英語文学基礎演習Ⅱ

英語で書かれた文学作品を読みといていく楽しさを知るための演習形式の授業である。その結果、言葉の持つ力を学び、文学作品を生み出す文化的背景を知り、文化を構成する要素を分析し、文学作品と作者、そして読者の関係を考えることになる。すなわち、この授業は英語圏の文学・文化の研究への誘いを目的とする。「英語文学基礎演習Ⅱ」では、中編なども織り交ぜ、より内容的に豊かな作品を中心に扱い、作品が作り出す世界を探求する。

AC212 Presentation 基礎演習Ⅰ

演習形式の入門授業であり、一人ひとりの学生がフォーマルなプレゼンテーションを行うことができるようになることを目指す。まずはプレゼンテーションを成功させるために必須の基本的要素を学ぶ。その後の授業では、学んだ要素を実践に活かすため、さまざまなトピックに関して、小さなグループで、また各自が、クラス内でのプレゼンテーションの練習と実践を行う。プレゼンテーション基礎演習はスキル修得を目的とするため、2年次での履修となる。

AC213 Presentation 基礎演習Ⅱ

演習形式の入門授業である。上記の「Presentation 基礎演習Ⅰ」で学んだスキルに基づき、プレゼンテーション成功させるためのさらなるスキルのアップを図る。トピックの選択の仕方や、プレゼンテーションを効果的に行うための周辺機器使用法などについて特に留意し、学習する。プレゼンテーション基礎演習はスキル修得を目的とするため、2年次での履修となる。

発展演習

AC301 Junior Composition

2年次の「Sophomore Reading & Writing I・II」を発展させ、4年次の卒業論文、Final Presentation に備えて学術的エッセイ・ライティングを実践する演習形式の授業である。この授業の目的は、英語で考え、パラグラフを構築し、パラグラフを結びつけ、それによって論理的な文章を書く能力を高めることである。論文執筆に必要な知識も適宜紹介しながら、文学、語学、文化、それぞれの分野に関する学術論文執筆のため、リサーチも行い、高度な英語表現の修得を目指す。

AC302 Comprehensive English Program AI

“Comprehensive”(包括的)という名前の通り、この演習形式の授業は、英語を読む力、聴く力、話す力、書く力の4つの領域において、学生の能力を向上させることに焦点を置いている。学生はさまざまな種類のテキストを読み、あるいは映画を鑑賞した上で、それらに対する自分の意見を、英語での discussion、英作文、口頭発表といった手段で表現する。この授業ではイギリス及びイギリスと関係深い文化圏の題材を中心に用いる。学生の批判的思考力のみならず、総合的な英語運用能力を伸ばすことがこの授業の目標である。

AC303 Comprehensive English Program All

この授業は「Comprehensive English Program AI」の上級クラスとして構成されており、英語を読む力、聴く力、話す力、書く力の4つの領域において、学生の能力を向上させることに焦点を置いている。学生は様々な種類のテキストを読み、あるいは映画を鑑賞した上で、それらに対する自分の意見を、英語での discussion、英作文、口頭発表といった手段で表現する。学生の批判的思考力のみならず、総合的な英語運用能力を伸ばすことがこの目標である。

AC304 Comprehensive English Program BI

“Comprehensive”(包括的)という名前の通り、この演習形式の授業は、英語を読む力、聴く力、話す力、書く力の4つの領域において、学生の能力を向上させることに焦点を置いている。学生は様々な種類のテキストを読み、あるいは映画を鑑賞した上で、それらに対する自分の意見を、英語での discussion、英作文、口頭発表といった形式で述べる。この授業ではアメリカ及びアメリカと関係深い文化圏の題材を中心に用いる。学生の批判的思考力のみならず、総合的な英語運用能力を伸ばすことが目標である。

AC305 Comprehensive English Program BII

この授業は「Comprehensive English Program BI」の上級クラスとして構成されており、英語を読む力、聴く力、話す力、書く力の4つの領域において、学生の能力を向上させることに焦点を置いている。学生は様々な種類のテキストを読み、あるいは映画を鑑賞した上で、それらに対する自分の意見を、英語での discussion、英作文、口頭発表といった形式で述べてゆく。学生の批判的思考力のみならず、総合的な英語運用能力を伸ばすことが目標である。

AC306 Grammar and Writing A

英語でエッセイを書くためにはトピックやパラグラフを理解し、パラグラフを組み立てる力が必要である。しかし、パラグラフを書くためには、英語の文構造を理解し、英語特有の仕組みを知る必要がある。この授業は卒業論文を英語で書くために、最低限必要な英語表現力を養うための授業である。基本的な文法を修得し、修得した文法を実際の文章にしていく作業を繰り返す。そういった実習を通して、卒業論文執筆につながる基礎的な英語表現力を養っていく。この授業は「Freshman English Seminar I・II」および「Sophomore Reading & Writing I・II」の補足を目指す。

AC307 Grammar and Writing B

英語でエッセイを書くためにはトピックやパラグラフを理解し、パラグラフを組み立てる力が必要である。しかし、パラグラフを書くためには、英語の文構造を理解し、英語特有の仕組みを知る必要がある。この授業は卒業論文を英語で書くために、最低限必要な英語表現力を養うための授業である。基本的な文法を修得し、修得した文法を実際の文章にしていく作業を繰り返す。そういった実習を通して、卒業論文執筆につながる基礎的な英語表現力を養っていく。この授業では、「Sophomore Reading & Writing I・II」および「Junior Composition」の補足を目指す。

AC308 Creative Writing A

ワークショップ形式で行われるこの授業は、短篇や詩を書くという創造性探求の機会を学生に与えることで、彼らが既に身につけた英語力を更に伸ばすものである。創作の手本使用を含めた様々な種類の創作の練習をこなすことによって、学生の書く作品に構成を持たせる。校正作業、学生同士による編集、修正に関するスキルも特に重要なものとして強調し、修得させる。創造的に思考し英語で巧みに表現する能力を向上させることが目標である。

AC309 Creative Writing B

ワークショップ形式で行われるこの授業は、散文文学を書くという創造性探求の機会を学生に与えることで、彼らが既に身につけた英語力を更に伸ばすものである。創作の手本使用を含めた様々な種類の創作の練習をこなすことによって、学生の書く作品に構成を持たせる。校正作業、学生同士による編集、修正に関するスキルも特に重要なものとして強調し、修得させる。創造的に思考し英語で巧みに表現する能力を向上させることが目標である。

AC310 英語学演習(英語の構造)

主に「語形論」と「統語論」からアプローチして、英語の構造について、具体的資料に基づき、体系的に理解することを目的とする。語の構造、文の構造などについて、先行研究、理論を学ぶだけでなく、英語の様々な文法現象を観察しながら、問題意識を持ってデータの分析を行い、考察を加える。実際の英語表現の分析を通して英語の文構造の特徴についての理解を深める。発表形式で授業を進め、資料収集、文献検索、データ分析などの研究の手法を学ばせる。

AC311 英語学演習(英語の歴史)

英語の歴史の中で、とくに重要な位置を占める文献を中心に取り上げて、英語の変化の実相の理解を深めることを目的とする。加えて、それらの文献を、書かれた当時の社会・文化的文脈の中において、トータルな考察を行う。歴史的文献を読み解くための辞書・参考書・コンコーダンスの活用方法などを学び、文の構造、語彙、語の意味・形態、文体など多面的アプローチを試みつつ、言語変化について具体的事実を踏まえた分析を行う技法を修得させる。

AC312 英語学演習(英語の意味)

「意味論」からのアプローチにより、日常的・具体的英語表現のなかで、どのように英語の意味が成り立っているかを考察し、理解を深めることを目的とする。語彙のレベル、文のレベル、文脈における意味などについて、文学作品を含む実際の英語の使用場面での、英語表現の意味の考察を通して、英語の意味の諸相を観察し、分析する。各自の発表形式で授業を進め、資料収集、文献検索、データ分析の方法などを修得させる。

AC313 英語学演習(英語の諸相)

言語変異に関する代表的論文をゼミ形式(担当者による口頭報告とそれを巡る参加者全員の討論)で読み進めることによって、各人が英語論文のスタイルと構成、データの収集と分析の方法を理解し、自らが

選んだテーマによって小論文が書けるように指導する。各種のリサーチツール(インターネット、図書館、コーパス、専門事典、英語辞典等)の利用方法についても紹介する。

AC314 2年次 Shakespeare 演習

シェイクスピアを原文で読む演習である。シェイクスピアの時代の言葉は現代の言葉とは随分と違う。この授業ではシェイクスピア作品を一つ取り上げ講読し、シェイクスピアの台本を読むための基礎力修得を目指す。シェイクスピアの時代の英語を読むための辞書などを紹介し、テキストにつけられた注なども丁寧に目を通すことで、シェイクスピアの時代の作品を読む力をつけていく。

AC315 英語文学演習(詩)

毎年扱われる詩や詩人は異なるが 英米のみならずその他の国の英語で書かれた詩が授業の対象となりうる 英語で書かれた詩の作品をとりあげて、その緻密な分析と解読を試みる演習形式の授業である。詩的言語で表現される詩人の発見ともいべき新鮮な認識を読み取るために、詩の構成要素である主題、イメージや象徴などの比喻、構造、リズムや詩の調子などに注意を払いながら詩の解読を試み、発表することが求められる。その後発表にもとづく討論があり、詩人が追求している詩的言語の可能性を、追体験することにより詩の本質を学ぶ。

AC316 英語文学演習(演劇) A

舞台上での上演を前提に書かれる演劇というジャンルは、小説、詩あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本演習においては、イギリスおよびイギリスと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げ、英語で精読する。戯曲と実際の上演の関係を考慮しながら、科白やト書きの解釈の仕方や、ポーズのとり方の考察なども含め、演劇作品の読解に必要な知識を修得させる。さらに、できるだけ舞台上演のビデオも見せながら、英語で書かれた演劇の文化的・社会的意味を考察させる。

AC317 英語文学演習(演劇) B

舞台上での上演を前提に書かれる演劇というジャンルは、小説、詩あるいは映画といった他の文学・文化の表象のジャンルとは大きく異なる。本演習においては、アメリカおよびアメリカと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げ、英語で精読する。戯曲と実際の上演の関係を考慮しながら、科白やト書きの解釈の仕方や、ポーズのとり方の考察なども含め、演劇作品の読解に必要な知識を修得させる。さらに、できるだけ舞台上演のビデオも見せながら、英語で書かれた演劇の文化的・社会的意味を考察させる。

AC318 英語文学演習(小説) A

この授業では英語圏の国々において書かれた小説作品の読解を対象とする、演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど種々の視点から作品の緻密な分析と解読を試みることで、個々の作品の

みならず、その作品を成立させた大きな文化的・歴史的コンテキストのより深い理解を得ることを目的とする。「英語文学演習(小説)A」ではイギリスおよびイギリスと関係の深い文化圏を中心に考察する。

AC319 英語文学演習(小説)B

この授業では英語圏の国々において書かれた小説作品の読解を対象とする、演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど種々の視点から作品の緻密な分析と読解を試みることで、個々の作品のみならず、その作品を成立させた大きな文化的・歴史的コンテキストのより深い理解を得ることを目的とする。「英語文学演習(小説)B」ではアメリカおよびアメリカと関係の深い文化圏を中心に考察する。

AC320 英語文学演習(小説)C

この授業では英語圏の国々において書かれた小説作品の読解を対象とする、演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど種々の視点から作品の緻密な分析と読解を試みることで、個々の作品のみならず、批評理論なども学び、深い理解を目指す。「英語文学演習(小説)C」ではイギリスおよびイギリスと関係の深い文化圏を中心に考察する。

AC321 英語文学演習(小説)D

この授業では英語圏の国々において書かれた小説作品の読解を対象とする、演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど種々の視点から作品の緻密な分析と読解を試みることで、個々の作品のみならず、批評理論なども学び、深い理解を目指す。「英語文学演習(小説)D」ではアメリカおよびアメリカと関係の深い文化圏を中心に考察する。

AC322 英語文学演習(評論)

英語で書かれた文学・文化批評とはいかなるもので、どのような文化的意味をもつものであるかを深く学ばせる。本演習では、英語圏文化における主要な現代批評理論のいくつかを取り上げて英語で読み、さまざまな文化の様相を分析し、その社会的意味を探究するカルチュラル・スタディーズとの関わりも考慮しながら、それらの理論を実際に英語圏文学作品、文化現象に適用させてみる。現代批評理論を用いることにより、英語圏文学・文化の理解にいかなる視点の変化がもたらされるかを修得させる。

AC323 英語文学・文化演習A

英語圏の様々な文化を表象する媒体を読み解いて行くための演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、英語圏文化における文化表象の問題を、文学作品、および映画、新聞、広告といった媒体をいくつか取り上げて読み解き、その文化的・社会的意味を議論し、考察する。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。「英語文学・文化演習 A」では、イギリスおよびイギリスと関係の深い文化圏を中心に考察する。

AC324 英語文学・文化演習B

英語圏の様々な文化を表象する媒体を読み解いて行くための演習形式の授業である。学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提としつつ、英語圏文化における文化表象の問題を、文学作品、および映画、新聞、広告といった媒体をいくつか取り上げて読み解き、その文化的・社会的意味を議論し、考察する。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。「英語文学・文化演習B」では、アメリカおよびアメリカと関係の深い文化圏を中心に考察する。

特殊演習

AC401 3年次特殊演習(英語文学文化)

3年次学生必修の通年授業であり、卒業論文、もしくは Final Presentation に向けて、テーマの探し方、テーマに応じた資料収集の仕方、資料の読解の方法、論理の組み立て方など、論文作成の技法を学ぶことが目的とする。英語文学・文化、英語学、プレゼンテーションの3分野に分かれ、いずれかのクラスを履修する。それぞれの分野で基本的な研究方法を履修させる。

AC402 4年次特殊演習(英語文学文化)

卒業年次生必修の授業である。英語文学・文化、英語学、プレゼンテーションの3分野のいずれかのクラスを履修する。3年次特殊演習の内容を、各教員の専門分野に応じて発展させたものである。従って、卒業論文あるいは Final Presentation のテーマは、この授業で取り上げた内容を発展させても良いし、独自のテーマを選んでよい。それぞれの教員の専門分野に応じた専門的な研究方法を修得させ、論文を書くための技法や表現などもあわせて学ばせる。

史学専攻

基盤講義

AD001 史学概論

歴史学とはどのような学問かを知り、それを学ぶために必要な知識、方法を習得させることを主要な目標とする。まず、歴史学とは何を対象とし、どのような方法で研究を進め、いかにその結果を総合し、提示する学問かを学ぶ。また、歴史学がいかにして学問として成立し、その間にどのような課題の前に立たされてきたか、この学問の歴史をたどる。これまで提示されてきた主要な歴史理論、発展段階論、歴史における法則性、歴史における個別性と一般性の問題、歴史認識における主観性と客観性などの諸問題が論じられる。

AD002 日本史概説Ⅰ

日本の前近代を中心とした日本の歴史を通観し、日本史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。本講義では、上記の目的を達成するため、日本列島における社会の歴史的变化について、特に東アジアとの関係を重視しつつ、その特質を考察する。時期は紀元前の原始社会、および古代から中世末、近世初頭、(紀元後 1 世紀から 16 世紀末)を対象とし、各時期の重要テーマやトピックを中心に、さらにこの問題に対する最近の論点・争点もふまえて検討する。そして政治事件の推移だけでなく、社会体制の変化など大きな歴史の動きをとらえる視点も養う。

AD003 日本史概説Ⅱ

日本の近世・近現代を中心とした日本の歴史を通観し、日本史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。上記の目的を達成するため、本講義では、日本列島における社会の歴史的变化について、日本とアジア・欧米諸外国との関係を重視しつつ、その特質を考察する。時期は近世・近代・現代(17世紀から20世紀)を対象とし、各時期の重要テーマやトピックを中心に、さらにこの問題に対する最近の論点・争点もふまえて検討する。そして政治事件の推移だけでなく、社会体制の変化など大きな歴史の動きをとらえる視点も養う。

AD004 東洋史概説Ⅰ

東アジア地域の基礎的な歴史知識を学ぶことを目標とする。本講義では、中国史を中心として、東アジア地域の前近代から近現代史にいたる歴史を対象とし、理解を深めることを意図し、歴史上の重要な事項について基本的な学習をする。また、そのためにも講義の過程において、史料を配布して実証的に歴史を学ぶことの必要性を強調し、また、歴史研究が現在の諸問題と深く関係を有していることに注意を喚起する。さらに学生が講義の内容について、積極的にみずから学習できるように関連する研究成果の紹介につとめる。

AD005 東洋史概説Ⅱ

東南アジア・南アジア・西アジアの基礎的な歴史知識を学ぶことを目標とする。本講義では、南アジアにおけるヒンドゥー文明および西アジアにおけるペルシア文明とイスラーム文明の成立と展開、東南アジアにおけるこれら諸文明の流入と摂取、当該諸地域におけるヨーロッパ勢力の進出と植民地支配、各地諸民族の独立など、歴史上の重要事項について基本的な学習をする。また、本講義の狙いは単にアジア史の概略的知識を習得することだけではなく、世界史あるいは人類史への視点を養うことにも置かれる。

AD006 西洋史概説Ⅰ

ヨーロッパ前近代を中心とした西洋の歴史を通観し、西洋史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。本講義では、上記の目標を達成するために、西洋史学上重要とされるトピックに焦点をあてつつ、西洋古代から西洋中世までの歴史を概ね時系列に沿って講述する。なお、取り上げるトピックは以下の通り。1. ギリシア世界の成立と展開、2. アレクサンドロスの東方遠征とヘレニズム世界、3. ローマ帝国の成立と展開、4. ヨーロッパ中世世界の成立、5. ヨーロッパ中世盛期とキリスト教、6. ヨーロッパ中世世界の崩壊。

AD007 西洋史概説Ⅱ

近世以降のヨーロッパを中心とした西洋の歴史を通観し、西洋史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。本講義では、上記の目標を達成するために、西洋史学上重要とされるトピックに焦点をあてつつ、近世以降の西洋の歴史を、「ヨーロッパ世界の変質」、「外部世界との交流と摩擦」、「世界史への影響」という3つの視点を軸にたどっていく。なお、取り上げるトピックは以下の通り。1. 非ヨーロッパ世界との交流の拡大、2. 主権国家と世界経済、3. ヨーロッパ近代社会の成立、4. 国民国家の成立と帝国、5. 世界支配の確立、6. ヨーロッパの没落と復活、7. 日本における西洋史研究の歴史と特徴。

特殊講義

AD101 日本古代史

日本古代、おもに7世紀から11世紀の期間について、この時期の社会の仕組みや動きを理解するうえでの、基礎的な知識を学ばせる。本講義では、日本古代において重要となる基礎的なトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連史料文献の検索方法および内容紹介、史料の解読・分析の方法を概観することによって、日本古代史を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD102 日本中世史

日本史の時代区分において「中世」として扱われる、ほぼ12～16世紀の期間について、この時期の社会の仕組みや動きを理解し、これを専門的に研究してゆく上での、基礎的な知識の伝達を目指す。中世史の展開をあらためて講述し、中世史研究における主要な概念や学説を紹介しつつ、近年の研究動向にも触れる。または、中世史を考える素材となる史料について、その類型と特色を述べ、さらに、中世史料を

検討する上で欠かすことのできない、「和製漢文体」の読解法や文書に関する基礎的な事項の一部を解説する。

AD103 日本近世史

日本史の時代区分において「近世」として扱われる、16世紀末～19世紀半ばの期間について、この時期の社会の仕組みや動きを理解し、これを専門的に研究してゆく上での、基礎的な知識の伝達を目指す。近世史の展開をあらためて講述し、近世史研究における主要な概念や学説を紹介しつつ、近年の研究動向にも触れる。または、近世史を考える素材となる史料について、その類型と特色を述べ、さらに、近世史料を検討する上で欠かすことのできない、独特の「候文」などの読解法や文書・記録に関する基礎的な事項の一部を解説する。

AD104 日本近現代史

本講は、日本の近現代史を、思想史の問題として概観することを目標とする。時期的には、主として幕末・維新时期から明治時代を中心にするが、当然のことながら大正・昭和戦前期までの思想史にも言及する。鹿野政直『近代日本思想案内』(岩波文庫)などを一つの手がかりにしながら、ナショナリズムの動向に重点を置いて概説していくが、国民国家論にも留意しながら進めることにする。なお、できれば戦中・戦後期の思想動向をも視野に収めたい。

AD105 中国史

中国は紀元前からの長期にわたる歴史を有し、また日本をふくむ東アジア地域全体にとっても大きな影響を与えてきた存在であることから、その歴史の流れについて基本的な理解を得ることを目標とする。前近代における皇帝支配、朝貢関係、近現代史における半植民地化と民族運動、中国革命など重要な項目について史料を用いて、中国史を構成している歴史的諸要素について解説し、あわせて現在の中国が抱えている諸問題について学生が関心を抱くようにつとめる。さらに学生がみずから積極的に学習しうることを意図し、参考文献などを紹介する。

AD106 アジア史

インド洋沿岸から内に広がるアジア諸地域における諸民族が存在し、その歴史の展開もまた多様である。その中でも、この諸地域・民族の歴史に特徴的な諸問題を取り上げ、それらについて基本的な理解を深めることを目標とする。ヒンドゥー教、仏教、イスラーム、ヨーロッパなどの文明および文化の発生・交流・定着・展開、それによって生じた地域・民族の基層文化との摩擦など、それらが当該各地の歴史に及ぼした影響や結果について、それぞれが今日抱える問題を視野に入れながら解説する。

AD107 ギリシア・ローマ史

ギリシア・ローマを中心とした古代地中海世界の歴史を通観し、西洋古代史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。本講義では、上記の目標を達成するために、西洋古代史学上重要とされるトピックに焦点をあてつつ、エーゲ文明成立から西ローマ帝国滅亡までの歴史を概ね時系列に沿って講述する。なお、取り上げるトピックは以下の通り。1. ギリシアの国制と政治、2. ギリシアの経済と社会、

3. ギリシアの宗教と文化、4. ヘレニズム世界、5. ローマの国制と政治、6. ローマの経済と社会、7. ローマの宗教と文化、8. 古代末期。

AD108 アメリカ史

植民地時代から19世紀末までのアメリカ合衆国の歴史を特定のテーマに即して概説する。具体的なテーマとしては、「戦争体験とその記憶」や「人種・民族関係の変遷」などアメリカ合衆国の社会に関わる基本的な問題を適宜選択して、他国との比較や相互関連に注目して講義する。また、適宜原史料を配付して、実証分析の方法にも言及するとともに、関連するビデオ教材を見せた上で感想文の提出を求め、講義内容の理解を促進する。

AD109 イギリス史

ブリテン諸島と海外に広がる帝国(植民地)からなる「ブリテン世界」の歴史を通観し、イギリス(ブリテン)史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得を目指す。本講義では、上記の目的を達成するために、イギリス史研究における重要なトピックに焦点をあてつつ、近世以降の時期を中心にイギリスの歴史を概ね時系列に沿って講述する。なお、取り上げるトピックは、1. 近世イギリスの国制と政治、2. 近世イギリスの経済と社会、3. 近代イギリスの国制と政治、4. 近代イギリスの経済と社会、5. 近世・近代イギリスの文化と思想、6. 近世・近代イギリスの帝国と植民地問題、7. 現代イギリスの諸問題。

AD110 ドイツ史

ドイツを中心にした近現代中欧の歴史を通観し、西洋近現代史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得をめざす。本講義では、上記の目標を達成するために、西洋近現代史学上重要とされるトピックに焦点をあてつつ、神聖ローマ帝国の消滅から、東西ドイツ統一までの歴史を概ね時系列に沿って講述する。なお取り上げるトピックは以下の通り。1. 神聖ローマ帝国の崩壊とナポレオンの支配、2. ウィーン体制とドイツ連邦、3. 三月革命と中欧、4. ドイツ統一とオーストリア＝ハンガリー二重帝国、5. 第一次世界大戦と中欧、6. ドイツ革命とヴァイマル共和国の成立、7. 第三帝国と第二次世界大戦、8. 冷戦と東西ドイツ、9. 東西ドイツ統一と拡大EU。

AD111 日本史特論(古代)A

日本古代における歴史を個別の分野に絞って深く学ばせることを目的とする。本講義では、おもに政治社会史の分野に焦点をあて、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連史料文献の検索方法および内容紹介、史料の解読・分析の方法を概観することによって、日本古代史を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD112 日本史特論(古代)B

日本古代における歴史を個別の分野に絞って深く学ばせることを目的とする。日本古代における歴史をより深く学ばせる。本講義では、おもに文化思想史の分野に焦点をあて、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせ

て、関連史料文献の検索方法および内容紹介、史料の解読・分析の方法を概観することによって、日本古代史を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD113 日本史特論(古代)C

日本古代における歴史を個別の分野に絞って深く学ばせることを目的とする。日本古代における歴史をより深く学ばせる。本講義では、おもに社会史に焦点をあて、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連史料文献の検索方法および内容紹介、史料の解読・分析の方法を概観することによって、日本古代史を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD114 日本史特論(中世)A

日本史の時代区分において「中世」として扱われる、ほぼ 12～16 世紀の期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本中世史の専門的な研究への理解を深め、中世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、権力者や支配勢力の動向を題材の中心に設定し、中世の政治や社会に関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD115 日本史特論(中世)B

日本史の時代区分において「中世」として扱われる、ほぼ 12～16 世紀の期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本中世史の専門的な研究への理解を深め、中世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、地域や諸集団の多様な諸側面からテーマを選び、中世の経済の仕組みや社会的慣習などに関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD116 日本史特論(中世)C

日本史の時代区分において「中世」として扱われる、ほぼ 12～16 世紀の期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本中世史の専門的な研究への理解を深め、中世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、寺社勢力の動向や人々の信仰に関わる領域に触れながら、中世における宗教や文化をめぐって、その担い手や背景、人々への受容のされ方などに関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD117 日本史特論(近世)A

日本史の時代区分において「近世」として扱われる、16 世紀末～19 世紀半ばの期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近世史の専門的な研究への理解を深め、近世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、公儀や諸大名・朝廷などの権力編成や政治的動向を題材の中心に設定し、近世の政治や社会に関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD118 日本史特論(近世)B

日本史の時代区分において「近世」として扱われる、16世紀末～19世紀半ばの期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近世史の専門的な研究への理解を深め、近世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、都市や村々、諸集団の多様な諸側面からテーマを選び、近世の経済の仕組みや社会組織などに関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD119 日本史特論(近世)C

日本史の時代区分において「近世」として扱われる、16世紀末～19世紀半ばの期間について、この時期の社会・政治・文化などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近世史の専門的な研究への理解を深め、近世史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、地域の寺社の動向や人々の信仰・教育に関わる領域に触れながら、近世における宗教や文化をめぐって、その担い手や背景、人々への受容のされ方などに関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD120 日本史特論(近現代)A

明治新政府の確立から展開してゆく日本の近代について、いくつかの時期区分に基づく対象時期における政治・社会・経済などの諸領域に関する個別の論題を、担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近現代史の専門的な研究への理解を深め、近現代史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、権力者や支配勢力の動向を国際的な契機にも留意しつつ分析し、近現代日本の政治や社会に関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD121 日本史特論(近現代)B

明治新政府の確立から展開してゆく日本の近代について、いくつかの時期区分に基づく対象時期における政治・社会・経済などの諸領域に関する個別の論題を、担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近現代史の専門的な研究への理解を深め、近現代史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、地域の経済と国際的な契機を視野に入れながら、日本における資本主義・市場経済の展開に関する興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD122 日本史特論(近現代)C

明治新政府の確立から展開してゆく日本の近代について、いくつかの時期区分に基づく対象時期における政治・社会・経済などの諸領域に関する個別の論題を担当者が設定し、最新の研究成果や具体的な史料を素材として論じることを通じて、受講者が日本近現代史の専門的な研究への理解を深め、近現代史への興味関心を豊かにすることを目指す。この講義では、諸集団・諸階層の動向に触れながら、社会の新たな組織化や情報伝達・言論・大衆文化などをめぐって、興味深い論点や史料を提示・解説する。

AD123 東洋史特論(中国) A

中国史に関する基礎的な知識をもとにして、中国史の個別的な課題についてさらに深く学習することを目的とする。「東洋史特論(中国) A」では、おもに政治的側面を中心にして、皇帝支配、専制政治、官僚制度など中国史の特徴について史料をもちいて実証的に取り上げる。中国史においてこれらの問題がどのように研究されてきたか、また、現在の研究状況について解説する。さらに学生が、積極的にみずから専門的な研究成果を学び知識を得るために、参考文献の検索方法などについても紹介する。

AD124 東洋史特論(中国) B

中国史に関する基礎的な知識をもとにして、中国史の個別的な課題についてさらに深く学習する。「東洋史特論(中国) B」においては、おもに経済的側面について、中国における土地所有制度、前近代における朝貢貿易、近現代においては日本や欧米諸国との外交関係、土地革命など中国史の特徴について史料をもちいて実証的に取り上げる。中国史においてこれらの問題がどのように研究されてきたか、また、現在の研究状況について解説する。さらに学生が、積極的にみずから専門的な研究成果を学び知識を得るために、参考文献の検索方法などについても紹介する。

AD125 東洋史特論(中国) C

中国史に関する基礎的な知識をもとにして、中国史の個別的な課題についてさらに深く学習する。「東洋史特論(中国) C」においては、中国の文化や社会について、環境問題、少数民族、都市と農村など、現在の中国において問題となっている点に注目しつつ、その歴史的背景などについて史料をもちいて実証的に取り上げる。中国史においてこれらの問題がどのように研究されてきたか、また、現在の研究状況について解説する。さらに学生が、積極的にみずから専門的な研究成果を学び知識を得るために、参考文献の検索方法などについても紹介する。

AD126 東洋史特論(アジア) A

インド洋沿岸から内に広がるアジア諸地域・民族における近世以降の歴史について、基礎的な知識をもとにしてより深く学ばせる。本講義では、おもに政治と社会にかかわる問題に焦点をあてる。ヨーロッパ勢力による進出と植民地化、植民地支配の実態とその支配からの解放、独立国家建設への過程など、この地域の歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、さらに専門的に学んでいくうえで基盤となる知識および技法を習得させる。

AD127 東洋史特論(アジア) B

インド洋沿岸から内に広がるアジア諸地域・民族における近世以降の歴史について、基礎的な知識をもとにしてさらに深く学ばせる。本講義では、おもに経済と社会にかかわる問題に焦点をあてる。近世以降におけるインド洋を通してのアジア間交易の発展、資本主義を背景とするヨーロッパ勢力によるその交易支配とそれに続く植民地支配など、この地域の歴史理解に重要となるトピックをいくつか取り上げ、さらに専門的に学んでいくうえでの基盤となる知識および技法を習得させる。

AD128 東洋史特論(アジア)C

インド洋沿岸から内に広がるアジア諸地域・民族における近世以降の歴史について、基礎的な知識をもとにしてより深く学ばせる。本講義では、おもに文化、宗教、思想と社会にかかわる問題に焦点をあてる。各地域・民族の伝統的な宗教、ヒンドゥー教やイスラームなどに基づく特徴的な社会制度や文化、それらの歴史の変容など、この地域の歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、さらに専門的に学んでいくうえで基盤となる知識および技法を習得させる。

AD129 西洋史特論(古代)A

古代地中海世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋古代の政治と社会にかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋古代政治史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD130 西洋史特論(古代)B

古代地中海世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋古代の経済と社会にかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋古代経済史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD131 西洋史特論(古代)C

古代地中海世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋古代の文化と社会とにかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋古代文化史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD132 西洋史特論(中世)A

西洋中世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該期の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該期の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋中世の政治と社会にかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋中世政治史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD133 西洋史特論(中世) B

西洋中世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該期の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該期の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋中世の経済と社会にかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋中世経済史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD134 西洋史特論(中世) C

西洋中世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該期の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該期の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋中世の文化と社会にかかわる問題を対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋中世文化史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD135 西洋史特論(近世) A

西洋近世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋近世世界の政治と社会にかかわる問題に焦点をあてる。西洋近世の歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋近世政治史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD136 西洋史特論(近世) B

西洋近世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋近世世界の経済と社会にかかわる問題に焦点をあてる。西洋近世の歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋近世経済史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD137 西洋史特論(近世) C

西洋近世世界の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに西洋近世世界の文化、思想、社会にかかわる問題に焦点をあてる。西洋近世の歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。

また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、西洋近世文化史、思想史、社会史を専門的に学んでいく際に基盤となる知識および技法を修得させる。

AD138 西洋史特論(近現代) A

近現代中欧の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに第一次世界大戦前の19世紀ドイツを対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、19世紀ドイツ史を専門的に学んでいく際に基礎となる知識および技法を修得させる。

AD139 西洋史特論(近現代) B

近現代中欧の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに二つの世界大戦の時代のドイツを対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、20世紀前半ドイツ史を専門的に学んでいく際に基礎となる知識および技法を修得させる。

AD140 西洋史特論(近現代) C

近現代中欧の特定の地域に焦点をあてたミクロの視点から当該地域の歴史をより深く学ぶとともに、隣接諸科学の知見を援用したマクロの視点から当該地域の歴史をより立体的に理解する。本講義では、おもに第二次世界大戦後東西ドイツ統一までの冷戦時代のドイツを対象にして、その歴史を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げ、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて講述する。また、関連文献史料の検索方法および内容紹介、史料の読解・分析の方法等を概観することによって、20世紀後半ドイツ史を専門的に学んでいく際に基礎となる知識および技法を修得させる。

AD141 美術史(日本)

日本史上に遺された歴史的な絵画や造形物等の諸作品について鑑賞・考察しながら、作品の製作・享受・流通等とその背景にある技術・技巧や社会的観念、信仰、政治的動向などについても理解を深めることを目指す。講義では、いくつかの時代区分に基づいて、担当者の専攻に即して題材とする作品分野を選び、教室の大モニターへ作品の写真・図版等を提示しながら、作品についての理解を語ってゆく。とくに、画像作品については、歴史史料としての位置付けや使用法についても論及する。

AD142 美術史(東洋)

古代から現代にいたる東洋における美術・建築などの歴史を通観し、各時代・地域の美術・建築様式、また代表的な作品と作者を中心にして、東洋美術史を理解するうえでの基礎的な知識の体系的な修得を

目的とする。このため、美術史上の重要な事項、作品を重点的に取り上げて、研究史を整理し、また近年の新たな研究成果を紹介して、学生の東洋美術史への理解と関心をうながすことを意図している。

AD143 美術史(西洋)

古代から現代までの西洋における美術・建築の歴史を通観し、各時代のドミナントな美術建築様式、主な芸術家と作品を中心に、西洋美術史を学ぶうえで必要となる基礎知識の体系的な修得をめざす。講義では、上記の基本目標の達成をはかりながら、西洋美術史学上重要とされるいくつかのトピックも集中的に取り上げ、それをめぐる研究史を批判的に整理しつつ、最新の知見をまじえて講述する。特に宗教に対する絵画の役割や、新しい美術運動の世界史的的な意味合い等、問題史的なパースペクティブも考究の対象に含めたい。

AD144 考古学(日本)

考古学の方法論や知見を学び、歴史学をより広い視野で研究する基礎を修得する。本講義では、おもに日本列島の考古学に焦点をあて、旧石器・縄文・弥生・古墳・歴史考古学を理解するうえで重要となるトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連遺跡・遺物や文献の検索方法および内容紹介、考古資料の解読・分析の方法を概観することによって、歴史学を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD145 考古学(東洋)

考古学の成果や方法論を学び、歴史学についてもより広い知識と関心を得る基礎を習得する。本講義では、東洋における考古学の研究成果について時代や地域別に重要な事項を取り上げて、研究史を整理し、最新の成果についても学習する。また、学生がその関心に応じて、専門的な研究をさらに学ぶために必要な遺跡や遺物に関する参考文献の検索方法などについても紹介し、歴史学を学ぶうえで必要な隣接分野の研究成果についても基礎的な知識と学習方法を有するように指導する。

AD146 考古学(西洋)

考古学の方法論や知見を学び、歴史学をより広い視野で研究する基礎を修得する。本講義では、おもにヨーロッパとその周辺地域に焦点をあて、西洋文明の成り立ちを理解するうえで重要となる考古学上のトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連遺跡・遺物や文献の検索方法および内容紹介、考古資料の解読・分析の方法を概観することによって、歴史学を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD147 歴史学特別講義A

歴史学の各分野において第一線で活躍されてきた日本史・東洋史・西洋史の研究者を学外から招き、特定の時代・地域の歴史をめぐる専門的研究蓄積について深く学ぶとともに、比較史等の手法を援用して他時代・地域の歴史への理解をひろげることによって、学生が専門研究をすすめる際に自らの研究視座を適切に定置できるよう指導する。「歴史学特別講義A」においては特に政治と社会に焦点を当てて、歴

史学の発達や研究者の問題関心の有り様について学習し、歴史学そのものについてより深く理解させることを意図している。

AD148 歴史学特別講義B

歴史学の各分野において第一線で活躍されてきた日本史・東洋史・西洋史の研究者を学外から招き、特定の時代・地域の歴史をめぐる専門的研究蓄積について深く学ぶとともに、比較史等の手法を援用して他時代・地域の歴史への理解をひろげることによって、学生が専門研究をすすめる際に自らの研究視座を適切に定置できるよう指導する。「歴史学特別講義B」においては特に文化と社会に焦点を当てて、歴史学の発達や研究者の問題関心の有り様について学習し、歴史学そのものについてより深く理解させることを意図している。

基盤演習

AD201 歴史学基礎演習

歴史のおもしろさを実感させることによって歴史学に対する学生の知的関心を高めつつ、歴史を研究していくうえで求められる諸能力(論理的・批判的思考能力、歴史的テキストの読解力、問題発見能力等)の育成を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、古典として評価の高い歴史書を精読して内容を正確に把握したうえで、論点をまとめて報告させる。また、報告者、コメンテーター、教員のあいだで質疑応答および討論を重ねていくことによって、コミュニケーション能力の育成にも努める。

AD202 歴史学演習

歴史の知識をさらに充実させ、かつ、歴史学に対する視野をさらに広げていくことによって、2年次後期に学生が自身の研究分野を主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、各教員が専攻する分野の歴史書または歴史論文を精読して内容を正確に把握したうえで、論点をまとめて報告させる。また、報告者、コメンテーター、教員のあいだで質疑応答および討論を重ねていくことによって、コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

AD203 日本史基礎演習(古代)

日本古代における歴史を理解するうえでの基礎的知識を学ばせる。本講義では、日本古代において重要となる基礎的なトピックをいくつか取り上げて、研究史を批判的に整理しつつ最新の知見もまじえて論じる。あわせて、関連史料文献の検索方法および内容紹介、史料の解読・分析の方法を概観することによって、日本古代史を専門的に学んでいく際の基盤となる知識および技法を修得させる。

AD204 日本史基礎演習(中世)

日本中世史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、日本中世史上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や

重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD205 日本史基礎演習(近世)

日本近世史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、日本近世史上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD206 日本史基礎演習(近現代)

日本近現代史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、日本近現代史上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD207 東洋史基礎演習(中国)

中国史について専門的に学習するために必要な基礎的知識の習得を目標とする。そのために、入門的参考書を用いて歴史的に重要な事項・人物などについて学ばせ、中国史の特色を理解させるとともに、専門的な研究成果について分野ごとに解説する。また、学生がみずから積極的に学習するために不可欠な辞書・事典・史料集などの使用方法、あるいは参考文献の検索方法などを紹介し、演習における発表や討論の方法などについて実践的に学ばせる。

AD208 東洋史基礎演習(アジア)

西アジア、南アジア、東南アジア各地域の歴史を専門的に学ぶうえで必要な基礎知識の習得を目標とする。これら地域 of 歴史に広くかかわるテーマを論じた基本的文献を用いて、重要事項を学ばせ、その特色を理解させるとともに、専門的な研究成果を地域ごとに解説する。また、学生自らが積極的に学習するための研究工具の使用法、文献検索の方法などを紹介し、演習における発表や討論の方法などについて実践的に学ばせつつ、学生が適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。

AD209 西洋史基礎演習(古代)

西洋古代史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、西洋古代史学上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD210 西洋史基礎演習(中世)

西洋中世史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、西洋中世史学上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD211 西洋史基礎演習(近世)

西洋近世史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、西洋近世史学上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する文献や史料をテキストとして講読する。これを通じてテキスト読解力を高めると同時に、西洋近世史の基礎知識の修得と各自の問題意識の明確化をはかる。そのうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD212 西洋史基礎演習(近現代)

西洋近現代史を専門的に学んでいくうえで必要となってくる基礎知識の定着を図りつつ、学生自らが、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、西洋近現代史学上重要とされるトピックをいくつか選択して、それに関連する最新の研究文献や重要史料とのクロスレファランス作業を繰り返しおこなったうえで、各学生に調査結果を報告させ、討論を重ねることによって、基礎知識の定着と最新の学界動向の把握に努める。

AD213 歴史民俗調査A

文献史学が対象とする文書・記録・年代記・編纂物といった史料だけでなく、伝承資料を抽出・分析する手法を学び、列島社会の歴史に迫る方法の幅を広げることを目指す。世代から世代へと受け継がれてきた慣習・儀礼・規範・作法などを、聞き取り調査により資料化して分析する民俗学的な手法を中心に、場合に応じて、文献史料や、発掘調査による出土遺物、地域に保存されている木造・石造などの文化財といった素材をも織り込みながら、おもに特定の地域社会を対象として調査・考察を行う。

AD214 歴史民俗調査B

文献史学が対象とする文書・記録・年代記・編纂物といった史料だけでなく、伝承資料を抽出・分析する手法を学び、列島社会の歴史に迫る方法の幅を広げることを目指す。世代から世代へと受け継がれてきた慣習・儀礼・規範・作法などを、聞き取り調査により資料化して分析する民俗学的な手法を中心に、場合に応じて、文献史料や、発掘調査による出土遺物、地域に保存されている木造・石造などの文化財といった素材をも織り込みながら、おもに特定の集団や階層を対象に設定して、調査・考察を行う。

発展演習

AD301 日本史演習(古代)A1

これまでに身につけた日本古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、日本古代史の文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、日本古代の飛鳥・奈良・平安期の編年史料を基礎テキストとして、さらに法制史料・文書・出土史料も踏まえて、日本古代の政治社会・文化思想などをめぐって多角的に論点を設定し、報告者、コメンテーター、教員とのあいだで討議を重ねていく。その際史料批判、研究史、関連論文等を踏まえて解読し、自らの研究テーマを検討する基礎を築く。

AD302 日本史演習(古代)A2

これまでに身につけた日本古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、日本古代史の文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、日本古代の飛鳥・奈良・平安期の法制関係史料を基礎テキストとして、さらに編年史料・文書・出土史料も踏まえて、古代の政治社会・文化思想などをめぐって多角的に論点を設定し、報告者、コメンテーター、教員とのあいだで討議を重ねていく。その際史料批判、研究史、関連論文等を踏まえて解読し、自らの研究テーマを検討する基礎を築く。

AD303 日本史演習(古代)B1

これまでに身につけた日本古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、日本古代史の文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、日本古代の飛鳥・奈良・平安期の政治社会に関する文献・史料を基礎テキストとして、さらに編年史料・文書・出土史料も踏まえて、古代の政治社会さらにはその背後の文化思想などをめぐって多角的に論点を設定し、報告者、コメンテーター、教員とのあいだで討議を重ねていく。その際史料批判、研究史、関連論文等を踏まえて解読し、自らの研究テーマを検討する基礎を築く。

AD304 日本史演習(古代)B2

これまでに身につけた日本古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、日本古代史の文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、日本古代の飛鳥・奈良・平安期の文化思想に関する文献・史料を基礎テキストとして、さらに編年史料・文書・出土史料も踏まえて、古代の文化思想さらにはその背後の政治社会などをめぐって多角的に論点を設定し、報告者、コメンテーター、教員とのあいだで討議を重ねていく。その際史料批判、研究史、関連論文等を踏まえて解読し、自らの研究テーマを検討する基礎を築く。

AD305 日本史演習(中世)A1

中世史についての近年の研究論文を精読し、著者の史料解釈や議論の展開・構成を批判的にトレースしながら、提示史料の読みと解釈にもあらためて挑む作業を通じて、受講者が卒業論文に取り組む際に不可避となる先行研究と史料の検討作業を、独力で行うための素地を養うことを目指す。この授業では、

中世の政治・社会に関する論考を担当者が選定・配布し、当該論文のパートごとに受講者が分担して、議論の内容と提示史料などにつき、自身の理解に基づいて報告する。報告者以外は、これを受けて質疑や批判を行い、アイデアの提示につとめる。

AD306 日本史演習(中世)A2

中世史についての近年の研究論文を精読し、著者の史料解釈や議論の展開・構成を批判的にトレースしながら、提示史料の読みと解釈にもあらためて挑む作業を通じて、受講者が卒業論文に取り組む際に不可避となる先行研究と史料の検討作業を、独力で行うための素地を養うことを目指す。前期につづき、中世の政治・社会に関する別の論考を担当者が選定・配布し、当該論文のパートごとに受講者が分担して、議論の内容と提示史料などにつき、自身の理解に基づいて報告する。報告者以外は、これを受けて質疑や批判を行い、アイデアの提示につとめる。

AD307 日本史演習(中世)B1

中世史についての近年の研究論文を精読し、著者の史料解釈や議論の展開・構成を批判的にトレースしながら、提示史料の読みと解釈にもあらためて挑む作業を通じて、受講者が卒業論文に取り組む際に不可避となる先行研究と史料の検討作業を、独力で行うための素地を養うことを目指す。この授業では、中世の社会・経済に関する論考を担当者が選定・配布し、当該論文のパートごとに受講者が分担して、議論の内容と提示史料などにつき、自身の理解に基づいて報告する。報告者以外は、これを受けて質疑や批判を行い、アイデアの提示につとめる。

AD308 日本史演習(中世)B2

中世史についての近年の研究論文を精読し、著者の史料解釈や議論の展開・構成を批判的にトレースしながら、提示史料の読みと解釈にもあらためて挑む作業を通じて、受講者が卒業論文に取り組む際に不可避となる先行研究と史料の検討作業を、独力で行うための素地を養うことを目指す。前期につづき、中世の社会・経済に関する別の論考を担当者が選定・配布し、当該論文のパートごとに受講者が分担して、議論の内容と提示史料などにつき、自身の理解に基づいて報告する。報告者以外は、これを受けて質疑や批判を行い、アイデアの提示につとめる。

AD309 日本史演習(近世)A1

近世史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近世史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、近世の政治・社会に関わるテーマから題材を選ぶ。

AD310 日本史演習(近世)A2

近世史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近世史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地

を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、前期での到達を踏まえて、さらに議論を深化・展開することを目指す。

AD311 日本史演習(近世)B1

近世史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近世史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、近世の社会・経済に関わるテーマから題材を選ぶ。

AD312 日本史演習(近世)B2

近世史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近世史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、前期での到達を踏まえて、さらに議論を深化・展開することを目指す。

AD313 日本史演習(近現代)A1

近現代史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近現代史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、近現代の政治・社会に関わるテーマから題材を選ぶ。

AD314 日本史演習(近現代)A2

近現代史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近現代史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、前期での到達を踏まえて、さらに議論を深化・展開することを目指す。

AD315 日本史演習(近現代)B1

近現代史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近現代史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、近現代の社会・経済に関わるテーマから題材を選ぶ。

AD316 日本史演習(近現代)B2

近現代史について設定した特定のテーマに即し、近年の研究成果を参照・検討し、関連する史料を読み進めて解釈を試みる作業を通じて、専門的な近現代史研究の実質に触れ、卒業論文に取り組む上での素地を養うことを目指す。授業では、テーマに関連する研究論文や史料群を演習の題材として共有し、参加者が適宜分担して、自身による調査・検討・考察の内容を報告するとともに、他の参加者は質疑・批判を通じて議論の進展に寄与する。この授業では、前期での到達を踏まえて、さらに議論を深化・展開することを目指す。

AD317 東洋史演習(中国)A1

中国史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、中国近現代史に関する政治社会史についての研究を共通の主題とし、また学生による個別的な研究発表を平行して実施する。そのために、本演習では、おもに史料の読解・理解に重点を置き、また、関連する専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生がみずから積極的に問題意識を持ち、課題を設定して学習できるように、個別的な指導を重視し、関連史料や参考研究の検索方法などについても紹介し、学生が必要な知識と情報を得ることができるようにする。

AD318 東洋史演習(中国)A2

中国史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、中国近現代史に関する政治社会史についての研究を共通の主題とするとともに、学生による個別的な研究発表を重視する。共通の主題ではおもに史料の読解・理解に重点を置き、また、関連する専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生の発表では、学生の卒業論文作成に必要な学力の養成に努め、そのために、研究発表と問題関心にもとづく討論を重視する。そのため、学生がみずから積極的に学習できるように、関連史料や参考研究の検索方法などについても解説する。

AD319 東洋史演習(中国)B1

中国史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、中国近現代史に関する文化思想史についての研究を共通の主題とし、また学生による個別的な研究発表を平行して実施する。そのために、本演習では、おもに史料の読解・理解に重点を置き、また、関連する専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生がみずから積極的に問題意識を持ち、課題を設定し

て学習できるように、個別的な指導を重視し、関連史料や参考研究の検索方法などについても紹介し、学生が必要な知識と情報を得ることができるようにする。

AD320 東洋史演習(中国) B 2

中国史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、中国近現代史に関する文化思想史についての研究を共通の主題とし、また学生による個別的な研究発表を平行して実施する。共通の主題ではおもに史料の読解・理解に重点を置き、また、関連する専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生の発表では、学生の卒業論文作成に必要な学力の養成に努め、そのために、研究発表と問題関心にもとづく討論を重視する。そのため、学生がみずから積極的に学習できるように、関連史料や参考研究の検索方法などについても解説する。

AD321 東洋史演習(アジア) A 1

アジア史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、アジア諸地域・民族に関する政治社会史についての研究を共通の主題とし、また学生による個別的な研究発表を平行して実施する。そのために、本演習では、重要な専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生がみずから積極的に問題意識を持ち、課題を設定して学習できるように、個別的な指導を重視し、関連史料や参考研究の検索方法などについても紹介し、学生が必要な知識と情報を得ることができるようにする。

AD322 東洋史演習(アジア) A 2

アジア史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、アジア諸地域・民族に関する政治社会史についての研究を共通の主題とするとともに、学生による個別的な研究発表を重視する。共通の主題では重要な専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生の発表では、学生の卒業論文作成に必要な学力の養成に努め、そのために、研究発表と問題関心にもとづく討論を重視する。そのため、学生がみずから積極的に学習できるように、関連史料や参考研究の検索方法などについても解説する。

AD323 東洋史演習(アジア) B 1

アジア史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、アジア諸地域・民族に関する社会文化史についての研究を共通の主題とし、また学生による個別的な研究発表を平行して実施する。そのために、本演習では重要な専門的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生がみずから積極的に問題意識を持ち、課題を設定して学習できるように、個別的な指導を重視し、関連史料や参考研究の検索方法などについても紹介し、学生が必要な知識と情報を得ることができるようにする。

AD324 東洋史演習(アジア) B 2

アジア史の基礎的な学習にもとづき、本演習では、アジア諸地域・民族に関する社会文化史についての研究を共通の主題とし、学生による個別的な研究発表を平行して実施する。共通の主題では重要な専門

的研究について取り上げ、その研究史における意義、著者の視点など内容を精読する。また、学生の発表では、学生の卒業論文作成に必要な学力の養成に努め、そのために、研究発表と問題関心にもとづく討論を重視する。そのため、学生がみずから積極的に学習できるように、関連史料や参考研究の検索方法などについても解説する。

AD325 西洋史演習(古代)A1

これまでに身につけた西洋古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ギリシア・ローマを中心とした西洋古代の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語論文を精読して、内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメンテーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD326 西洋史演習(古代)A2

これまでに身につけた西洋古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ギリシア・ローマを中心とした西洋古代の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、政治社会史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメンタリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファランズ・ブックの使い方を教授する。

AD327 西洋史演習(古代)B1

これまでに身につけた西洋古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ギリシア・ローマを中心とした西洋古代の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語論文を精読して、内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメンテーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD328 西洋史演習(古代)B2

これまでに身につけた西洋古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ギリシア・ローマを中心とした西洋古代の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、文化思想史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメンタリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファランズ・ブックの使い方を教授する。

AD329 西洋史演習(中世)A1

これまでに身につけた西洋中世史に関する知識を整理し体系化したうえで、西洋中世世界の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語論文を精読して、

内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメンテーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD330 西洋史演習(中世)A2

これまでに身につけた西洋中世史に関する知識を整理し体系化したうえで、西洋中世世界の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、政治社会史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメントリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファランズ・ブックの使い方を教授する。

AD331 西洋史演習(中世)B1

これまでに身につけた西洋中世史に関する知識を整理し体系化したうえで、西洋中世世界の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語論文を精読して、内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメンテーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD332 西洋史演習(中世)B2

これまでに身につけた西洋中世史に関する知識を整理し体系化したうえで、西洋中世世界の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、文化思想史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメントリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファランズ・ブックの使い方を教授する。

AD333 西洋史演習(近世)A1

西洋近世史に関する既習の知識を整理し体系化したうえで、西ヨーロッパを中心とした西洋近世の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化をはかる。本演習では、上記の目標を達成するために、履修者による西洋近世史に関する研究文献や史料(英語を中心とした外国語)の読解を行う。文献講読においては、精読に重点をおいた読解と速読に重点をおいた読解の両方の訓練を行う。そのうえで、参加学生と教員のあいだで、文献や史料の内容と重要論点をめぐり討議を重ねる。また、西洋近世史研究を進めるうえで必要な史資料収集の方法や、レファレンスブックの使い方も学ぶ。

AD334 西洋史演習(近世)A2

西洋近世史に関する既習の知識を整理し体系化したうえで、西ヨーロッパを中心とした西洋近世の政治社会史について論じた外国語文献の読解と履修者による個別研究の報告を並行して行うことによって、当該領域の知識のさらなる深化をはかる。本演習では、上記の目標を達成するために、政治社会史関連の文献(英語を中心とした外国語)の読解と、参加学生が各々選択した西洋近世史上のトピックに関して

の研究発表を行う。文献講読においては速読に重点がおかれる。文献講読、研究発表のどちらの場合についても、参加学生全員と教員のあいだで内容と重要論点をめぐり討議を重ねる。

AD335 西洋史演習(近世) B 1

西洋近世史に関する既習の知識を整理し体系化したうえで、西ヨーロッパを中心とした西洋近世の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化をはかる。本演習では、上記の目標を達成するために、履修者による西洋近世史に関する研究文献や史料(英語を中心とした外国語)の読解を行う。文献講読においては、精読に重点をおいた読解と速読に重点をおいた読解の両方の訓練を行う。そのうえで、参加学生と教員のあいだで、文献や史料の内容と重要論点をめぐり討議を重ねる。また、西洋近世史研究を進めるうえで必要な史資料収集の方法や、レファレンスブックの使い方も学ぶ。

AD336 西洋史演習(近世) B 2

西洋近世史に関する既習の知識を整理し体系化したうえで、西ヨーロッパを中心とした西洋近世の文化思想史について論じた外国語文献の読解と履修者による個別研究の報告を並行して行うことによって、当該領域の知識のさらなる深化をはかる。本演習では、上記の目標を達成するために、文化思想史関連の文献(英語を中心とした外国語)の読解と、参加学生が各々選択した西洋近世史上のトピックに関しての研究発表を行う。文献講読においては速読に重点がおかれる。文献講読、研究発表のどちらの場合についても、参加学生全員と教員のあいだで内容と重要論点をめぐり討議を重ねる。

AD337 西洋史演習(近現代) A 1

これまでに身につけた西洋近現代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ドイツを中心とした中欧近現代の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語論文を精読して、内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメントーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD338 西洋史演習(近現代) A 2

これまでに身につけた西洋近現代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ドイツを中心とした中欧近現代の政治社会史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、政治社会史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメントリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファレンス・ブックの使い方を教授する。

AD339 西洋史演習(近現代) B 1

これまでに身につけた西洋近現代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ドイツを中心とした中欧近現代の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、英語を中心とした外国語

論文を精読して、内容の正確な要約、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、報告者、コメントーター、教員のあいだで論点をめぐり討議を重ねていく。

AD340 西洋史演習(近現代) B 2

これまでに身につけた西洋古代史に関する知識を整理し体系化したうえで、ドイツを中心とした中欧近現代の文化思想史について論じた外国語文献および関連史料を実際に読解することによって、当該領域の知識のさらなる深化を図る。本演習では、上記の目標を達成するために、文化思想史関連の史料を精読し、関連項目の調査結果を各学生に報告させたのちに、コメントリーを踏まえた史料訳を作成させる。あわせて、史料読解に役立つレファランズ・ブックの使い方を教授する。

AD341 4年次演習(史学)

履修者が各々の専門分野で修得してきた知識や技術の延長線上に卒業論文の主題を確定し、先行研究を踏まえて自分の論文のねらいを定める過程で、必要な指導を行う。上記の目標を達成するために、本演習では、研究文献や史料を取り上げてそれらの内容を整理して重要な論点を抽出する訓練をしたり、参加者がそれぞれの研究テーマを中心に研究発表を行ったりする。文献読解や研究発表のための準備作業、授業時における討論を通じて、史資料の探し方と使い方、それらを研究史上に位置づける方法を学び、卒業論文作成に不可欠なノウハウを身につけられるようにする。

特殊演習

AD401 3年次特殊演習(史学)

卒業論文とは何かという理念的な側面と、文献の検索や読解の方法、問題発見の方法という技術的な側面の両方について学びながら、卒業論文作成のための基礎的な準備を進めていく。上記の目標を達成するために、各学生は自らの問題関心に沿った学術論文をとりあげ、その内容を理解し結構を吟味したうえで、問題点を整理して報告するという作業を複数回おこなう。本演習では、これら複数回の報告および討論を踏まえたレポートの提出を複数回義務づけることによって、文章表現力の向上もあわせて図る。

AD402 4年次特殊演習(史学)

4年次前期に確定した卒業論文の題目に基づいて、学生自身が主体的に卒業論文を完成させることができるよう指導する。本演習では、上記の目標を達成するために、まず、中間報告会を開催し、問題設定、篇別構成、分析手法、行論等に関する問題点を批判的に検討しあい、この中間報告会でのレビューを踏まえたうえで、さらに発表および討論を重ねることによって、卒業論文の内容の深化を図る。あわせて、論文執筆のための技法を具体的に指導していく。